



Organizational Ability Development

APアカデミー

キャリアアップ ガイド

— 社内向け研修プログラム —

APアカデミー

APアカデミーは、 人材育成を重視する エーピーコミュニケーションズの 「象徴」である。

APアカデミーは、企業戦略・事業戦略の達成に必要な、あらゆる要素を社員及びパートナー社員が獲得できるよう、企業理念に則りエーピーコミュニケーションズが提供する学習機会・環境である。



APアカデミーとは

APアカデミーとは、NeoSler*としての取り組みである”お客様のことを真剣に考えられるエンジニアを育成”するために、教育と実践のサイクルを加速させるエーピーコミュニケーションズ(以下、APC)の社内大学。APアカデミーでは、社員が成長しキャリアアップを実現するために必要とする知識やスキルを習得することができます。100近くある技術・経営・マネジメントなど幅広い分野の研修で、エンジニアの腕を磨いていきます。研修は内製化もしており、講師として活躍できる場もあります。

※NeoSler

私たちは、エンジニアとお客様が共に笑顔になれる未来を創るために「お客様のことを真剣に考えられるエンジニアを育成し、熱狂できるキャリアパスを創出し、パフォーマンスを最大化できる環境を創り、従来の慣例に捉われずに工夫と挑戦を行い続けることができるSler」になる必要があると考えています。私たちはこのようなSlerをNeoSlerと定義しています。

私たちがSlerにこだわる理由

IT業界とSI業界、SIとオリジナルプロダクト開発といった、業界や事業で垣根を創る必要はないと私たちは考えていますが、一部のサービスだけではなく、多くの産業により多くの影響を与えることが出来るのはSlerであると確信しております。

そんな私たちがエンジニアのキャリアパスを実現するにあたって、SI業界のしがらみから逃げずに正面から立ち向かうことで他のSlerの模範となることができ、私たちがSlerとして業界の垣根を意識せずに様々な事業に挑戦し続けることでSI業界自体を活性化しSlerの新しい価値を創り出せると考えているからです。



Organizational Ability
Development

APアカデミー

教育と実践のサイクルを加速させる社内大学

設立の背景

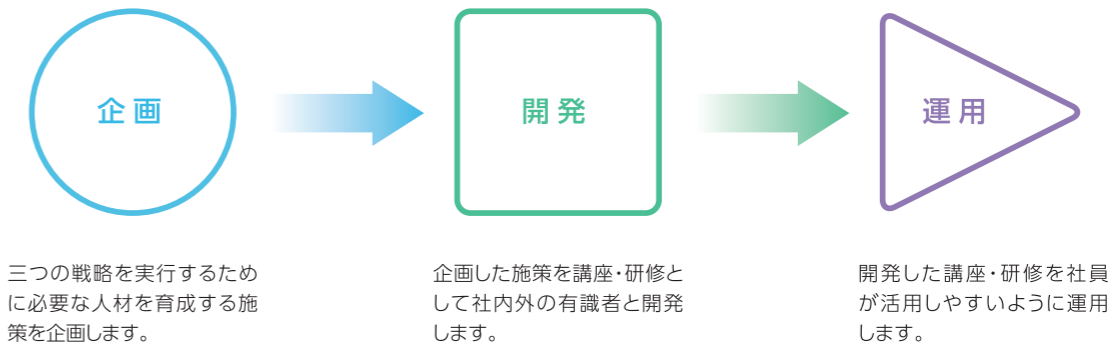
当社では社員がキャリアアップを実現するにあたって、学ぶことのできる環境と実践できる業務が必要だと考えています。以前の「学ぶことのできる環境」は、社外の教育機関による研修カリキュラムだけでした。各々の社員のスキルが向上し一定の成果はでたものの、教育と実践のサイクルがなかなか加速されませんでした。その要因となっていたのが、教育と事業戦略や人事戦略、目標管理との密接な連携がされていないことでした。

社外の教育機関でもスキル自体を身につける研修はできますが、それだけでは当社の事業戦略や実務に即した研修を実施することができません。そこで自社で社内大学を立ち上げることで、よりリアルで実務に適した、社員の本当に学びたい内容が学べる環境の実現を目指しました。



戦略との関係

APアカデミーは全社戦略コンセプトにリンクして、企画・開発・運用されています。



全社戦略コンセプト

戦略① 組織力向上

APCだから出来るブランドと生産性

- 1 将来に企業投資が増えると想定されるクラウドネイティブ領域において組織的ブランドを構築していく
- 2 組織として付加価値を、単純に人月では計算されない形態に転換(サブスクリプション・チケット等)
- 3 高生産性を実現する組織的請負・業務委託案件の比率向上
- 4 業界にチャレンジする人材の入口を閉ざさないため、組織力によってマルチエンジニアの理念に共感する人材の受け入れを可能にする
*生産性…インプット(労働量)に対するアウトプット(付加価値額)の大きさ

戦略② 個人力向上

業界最高水準のエンジニア価値とキャリアパスの実現

- 1 現在数少ない売上/人月の価値提供を実現するSEの比率を引き上げる
- 2 キャリアパスをつなげるために不足している事業を構築する(案件を獲得する)
- 3 市場価値の高い仕事へのシフトを加速、社員の平均売上/人月アップ
- 4 キャリアにつながらない事業からの撤退やグループ会社への事業移管、撤退する事業に従事するエンジニアのキャリア構築

戦略③ NeoSI実現

エンジニアの次なるステージを創る

- 1 オリジナルプロダクトは新しい収益モデルとして継続的にシード期からエキスパンドまでの流れを複数実現する
- 2 APCのエンジニア価値を最大化させる自社向けサービスに挑戦する
- 3 Mode1開発事業を段階的に再編し、Mode2開発事業を開始する
- 4 戦略③領域を特定の部署だけのものにせず、アイデアやモチベーションのあるあらゆる部署・人材に関わるチャンスを提供し新たな事業を創出する

効果

市場トレンドや顧客のニーズに併せた研修をスピーディーに実行できるようになりました

実務や事業戦略だけでなく個々のキャリアアップに即した研修のため、社員がキャリアを形成する際の選択肢が広がりました

年間で約2人に1人がキャリアアップとなるジョブローテーションを実現しました

社員が課題解決の際に共通のフレームワークを使うといった共通言語を用いることで効率的な議論を実施することができるようになりました

受講していた社員がゆくゆくは講師になるといったサイクルを回すことにより、学ぶ以上の高い習熟度をえられる環境になりました

今後の展開

社内大学としてのベースが形成されてきた今、より精度・社員の満足度の高い研修に昇華させていく予定です。具体的には下記に注力していきます。

▶ 変化の早い技術トレンドにマッチした技術研修を実現

▶ 他者の経験から学び、自分の失敗を共有するケースメソッドの実施

▶ マイクロラーニング(eラーニング)による学習の実施

▶ オンライン受講の実施

▶ 当社のノウハウを活かした社内講座と市場トレンドを取り入れた社外講座の組み合わせ



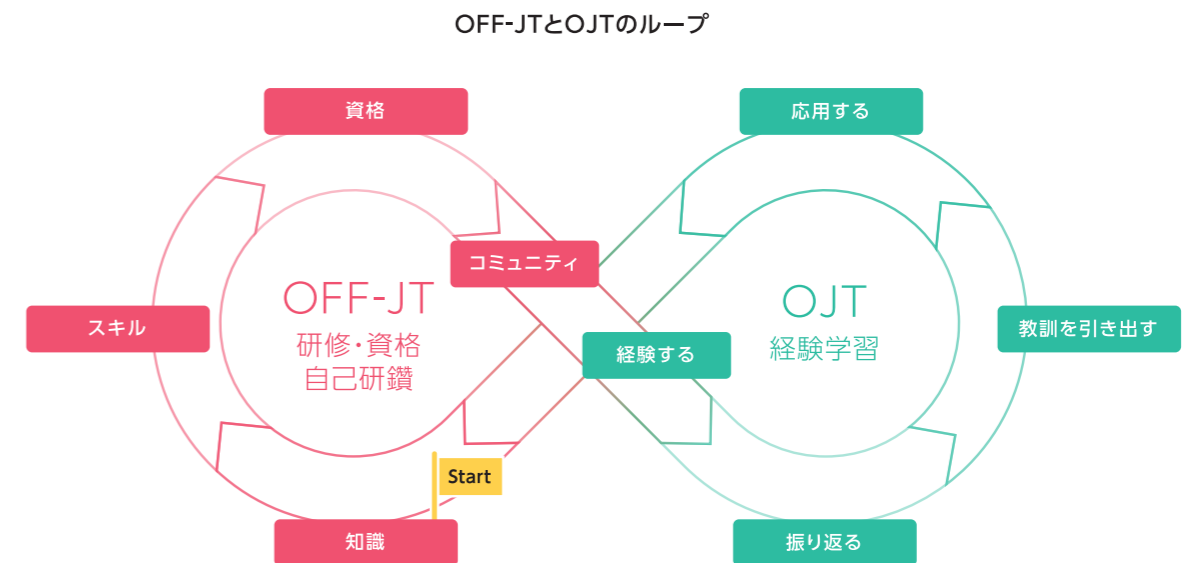
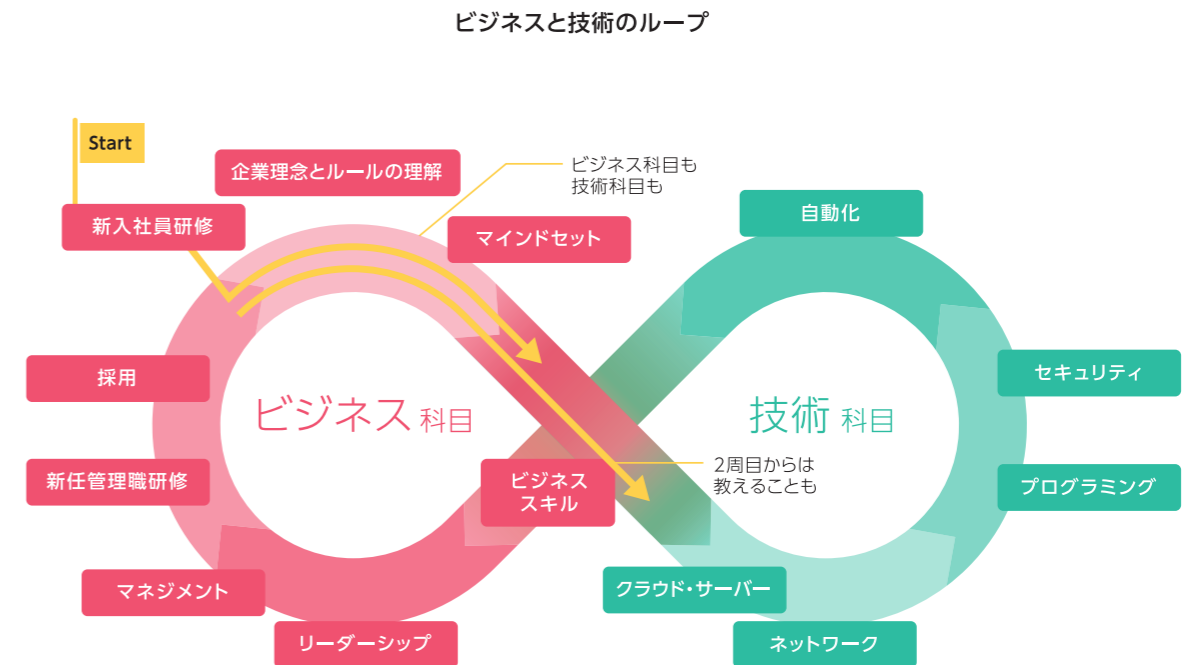
▶ ビジネス研修

APアカデミー

教育と実践のサイクルを加速させる社内大学

ムゲン学習ループ

マルチエンジニアとして、学ぶ要素にはビジネスと技術の項目があり、学ぶ方法にはOFF-JTとOJTがあります。学習効果を高めるためにはこの2つのループを回す必要があると考えます。



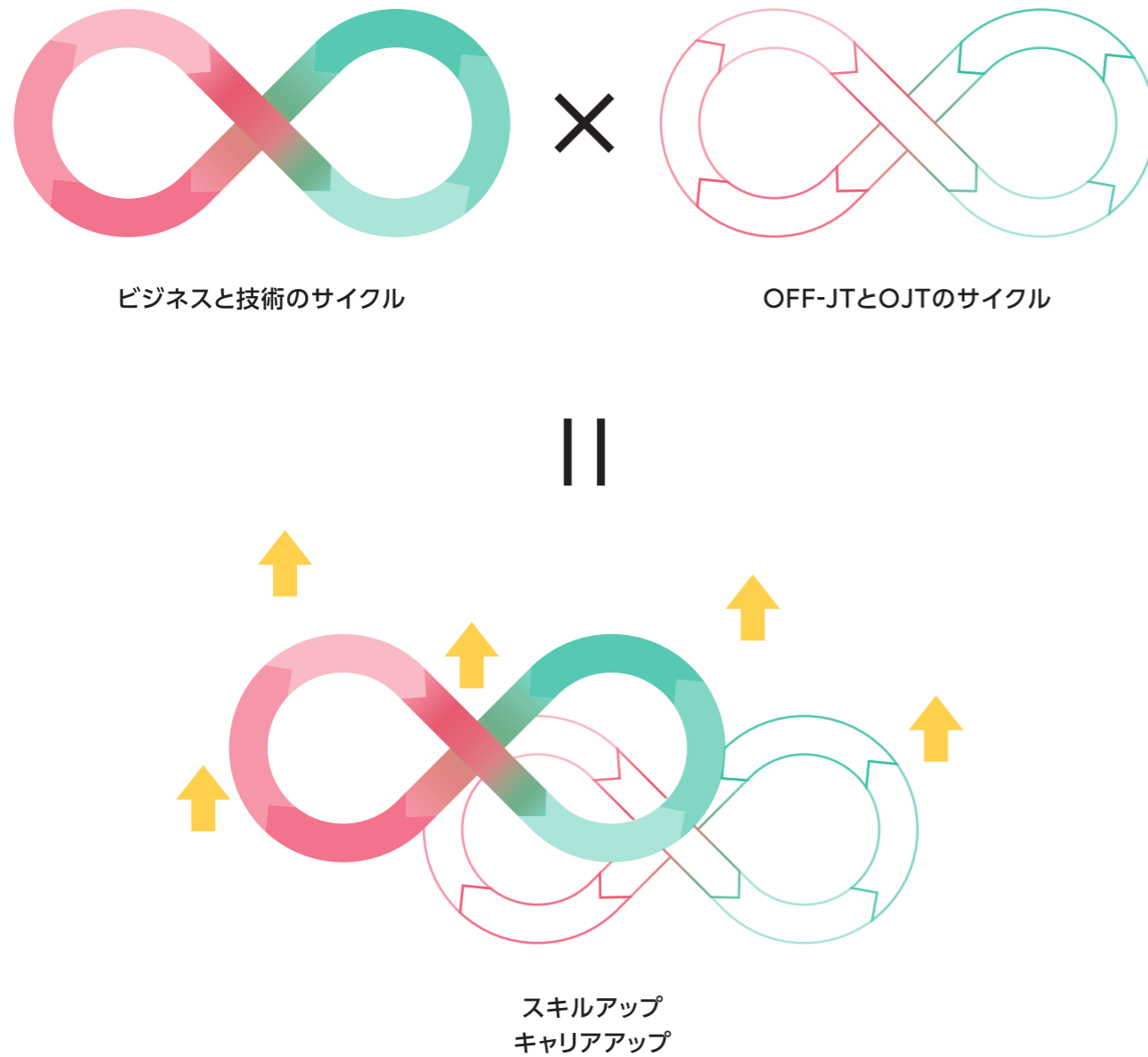
※「サイクル」は順番通りに一方方向に回すイメージがあるため、必要や状況に応じて戻ったり再開したりできるイメージがある「ループ」と名付けることにしました。

APアカデミー

教育と実践のサイクルを加速させる社内大学

ムゲン学習ループ

2つのループを回すことによって、スパイラルアップします。



マルチエンジニアの育成

APアカデミーでは、NeoSler構想を実現するために「マルチエンジニア」の育成を、最優先事項としています。

マルチエンジニアとは…

- 顧客のニーズを把握するためのビジネススキルを持ち
- 高い技術力でプロジェクトを成功させ、顧客に最高の満足を提供
- 異なる分野の人とも境界線をなくして連携、付加価値を高め
- 革新的でクリエイティブな事業構想/展開ができる変革者

マルチエンジニアを育成する仕組み

教育

APアカデミー

現場での実践

OJT

APアカデミー

教育と実践のサイクルを加速させる社内大学

求める人材像

当社では、技術と強みを持っている様々なエンジニアを求めています。様々な能力を持ったエンジニアが、連携・協力することでチーム全体の力を上げていく。そんな優れたチームを作るために、APアカデミーでは、多様性の尊んだ人材を育成しています。

マルチエンジニア

企業理念を実現するために必要な求める人物像を、「マルチエンジニア」と定義しています。次のようなマルチエンジニアの7つの構成要素を定義します。

1 技術力

社外においても通用する専門分野の領域を複数持っている(社会の変化にも対応できる)

2 成果

計画に基づいて実行していく中で、定期的に振り返り、検証を行いながら事業収益への貢献につなげ、新たな需要と高い利益を生み出すことができる

3 ニーズ把握力

相手の言いたいことを相手より上手に表現することができる

4 問題解決力

ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、ファシリテーションのスキルを使って多くの人の意見をまとめ、ゴールに向かうことができる

5 コミュニケーション力

自ら話しかけ、自分の考えに固執せずにオープンマインドで多様な人々と対話ができる

6 事業貢献力

組織に何の貢献ができるかを考え、多くの人に協力し、影響範囲を大きくすることができる

7 情熱

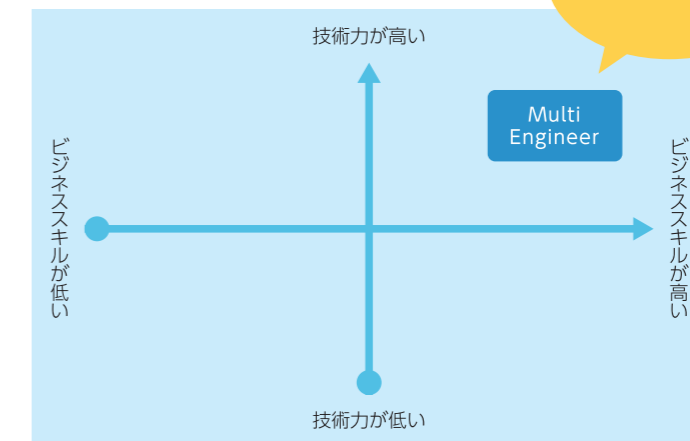
黙っていないで、自分の意見を情熱的に、繰り返し伝えることができる

マルチエンジニアの定義

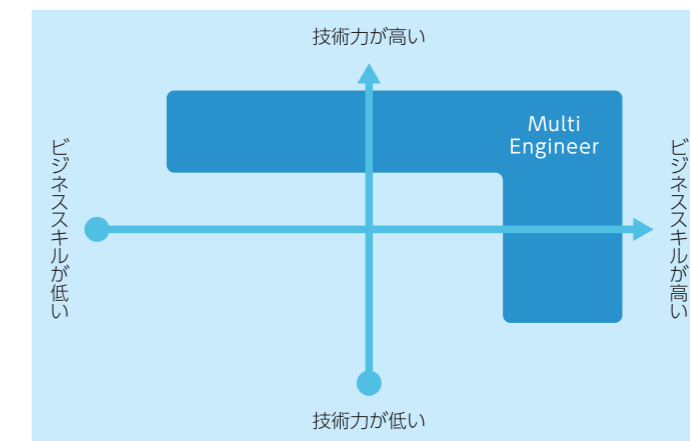
マルチエンジニアの定義は「技術力があるのは当たり前」で加えていくつかのビジネススキルがあることとされていますが、技術力に対する解釈、ビジネススキルに関する解釈等、認識を揃えるために次のように定義しています。

当社で実現したいのは組織的にマルチなパフォーマンスを発揮することであり、次のようなマルチエンジニア連携イメージを掲げ、多様性を尊んだ組織作りを目指していきます。

間違ったイメージ



正しいイメージ



マルチエンジニアは画一的ではない

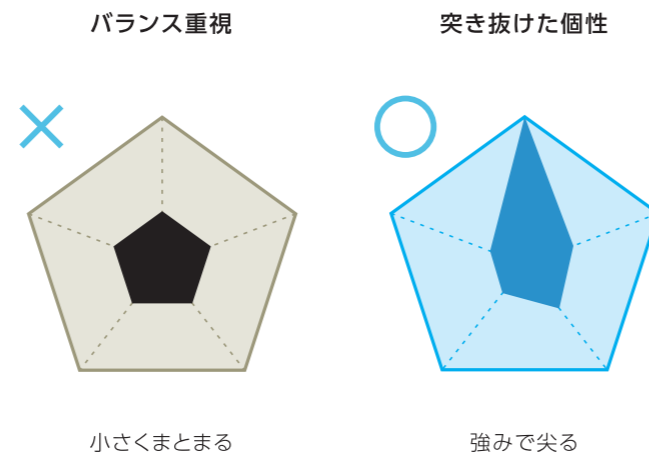
- 全てのコンピテンシーが高いマルチエンジニア
 - 技術が特別に強いマルチエンジニア
 - ビジネススキルが特別に強いマルチエンジニアなど
- ※ただし、「技術力がない」はNG

APアカデミー

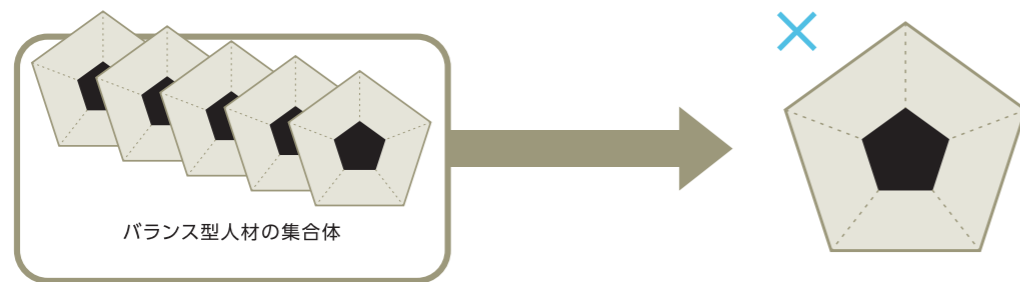
教育と実践のサイクルを加速させる社内大学

マルチエンジニアの連携

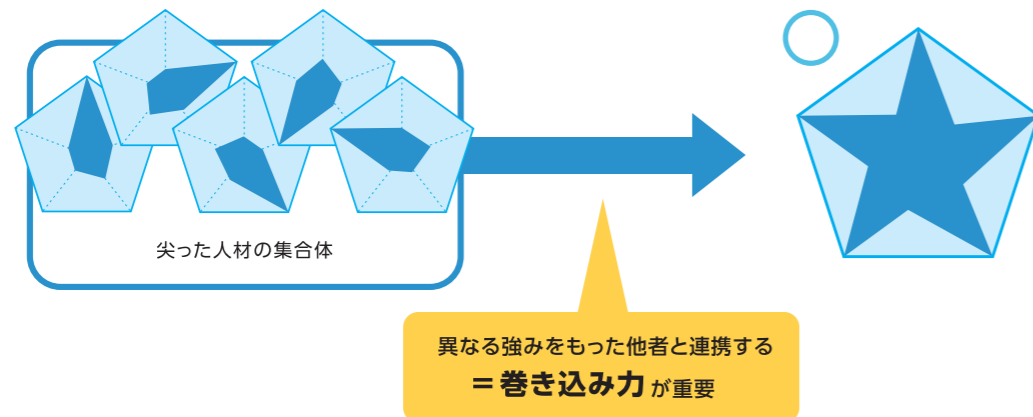
バランス型人材が多く揃っていても、技術的に突出したメンバーもコミュニケーション力に突出したメンバーもいないので、当然ながらチーム全体の総合力は変わらない。一方で、強みの異なる尖った人材が揃い連携することによって総合力は増していく。重要なのは尖ったエンジニアの要素として、すべての能力が高い必要はないが、異なる分野の尖った人材が連携できること(巻き込み力)は必須となる。



バランス型は集まってもチーム全体の能力は変わらない



各自の強みを活かして連携することでチーム全体の能力が向上する



研修科目

研修科目には、技術科目とビジネス科目があります。技術科目として「ネットワーク」「クラウド・サーバー」など、ビジネス科目として「マインドセット」「ビジネススキル」「企業理念とルールの理解」「リーダーシップ」「新任管理職研修」「新入社員研修」などのカテゴリで、講座を実施。新卒社員から管理職まで、自身のキャリアに合わせた講座を受講します。

技術科目

○ネットワーク/クラウド・サーバー/セキュリティ/プログラミング自動化

ネットワークセキュリティベーシック、ネットワーク構築ベーシック、SD-WAN研修 初歩編、TUF NW、AZ-104試験対策講座、Microsoft Azure入門、TUF Azure、AWS実践講座、Docker 環境構築、OpenShift入門、Pythonエンジニア 認定試験対策講座、Ansible Infrastructure as Codeにおける構成管理、OpenStack、Ansible、作業効率化VBA、グローバルPM、Web App、開発手法、アジャイル、リーン、Docker、AKS、Splunk、Zabbix、Grafana、Prometheus など

○その他

運用設計ワークショップ(基礎編)、インフラシステム設計・構築ワークショップ(要件定義編)、インフラシステム設計・構築ワークショップ(設計・構築・評価編)、コンサルティング能力向上、提案書作成 など
 ログ系アカデミー(Elastic Search) # 入門編、ログ系アカデミー(Elastic Search) # 初級編、TUF 自動化基礎、セキュリティ系アカデミー(SSH、SSL/TLS)、監視系アカデミー(Zabbix、Grafana、Prometheus)

※これらは一例です。講座・研修は、随時、アップデートしています。企画・開発中のもの、改修されるもの、終講するものなど含まれます。太字が既存の研修です。

ネットワーク	クラウド	プログラム自動化	その他
	Open Shift	TUF for Microsoft Azure	
TUF ネットワーク			Udemy PMP
Devnet Associate	Azure 入門	TUF 自動化	
SDx	Docker	Ansible	
次世代ファイアウォール	クラウドセキュリティ	AZ-104対策講座	AWS実践講座
ネットワーク構築ベーシック	ネットワークセキュリティベーシック	Udemy Azure	Udemy AWS
Udemy CCNA	Udemy Linux/LPIC	Python認定対策	運用設計WS(基礎)
		Udemy Python入門	Udemy VBA/Excel

APアカデミー

教育と実践のサイクルを加速させる社内大学

ビジネス科目

○マインドセット

キャリアデザイン研修、ダイバーシティ&インクルージョン、心理的安全性、7つの習慣®ハイブリッド・プロセス・ラーニング、アンコンシャス・バイアス、EQ (Emotional Intelligence)、アサーティブネス など

○ビジネススキル

ロジカルシンキング、問題解決、クリティカルシンキング、合意形成話法、ファシリテーション、H.O.L.C. (ビジネス英語)、ネゴシエーション、経営戦略、マーケティング など

○企業理念とルールの理解

エーピーコミュニケーションズの歴史、被評価者研修、人事制度解説、月イチコンプライアンス、メンタルヘルスケア研修、ハラスメント研修、投資教育研修、情報セキュリティ、セキュリティ研修 など

○リーダーシップ

リーダーシップ、アダプティブ・リーダーシップ、オーセンティック・リーダーシップ、組織行動とリーダーシップ、危機下におけるリーダーシップ、社内事例に学ぶリーダーシップ など

○新任管理職研修

新任管理職研修 (新任管理職への期待、戦略における管理職への期待、管理職の役割 (目標管理・人事評価)、評価者向け人事制度、メンタルヘルスケア、介護休業対応、育児休業対応、退職者対応、離職者対応、労務管理、ハラスメント、派遣法・下請法、業務委託 (請負)・派遣管理、労働関係法令、メンタルヘルスケア、タイムマネジメント)、気づき研修 など

○マネジメント

1on1 信頼構築、Management 3.0、リーン・チェンジマネジメント など

○採用

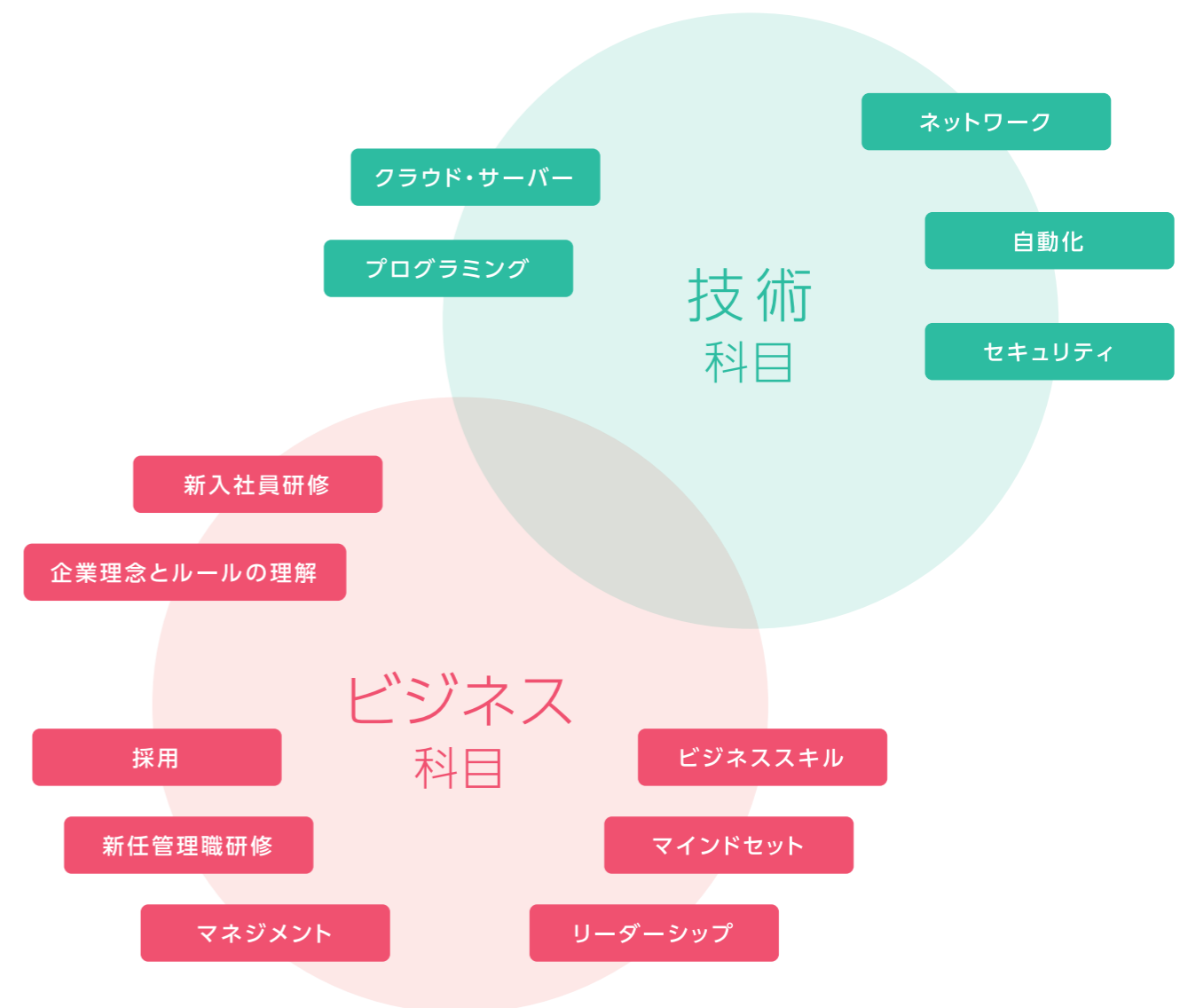
社員紹介制度 など

○新人社員研修

社長対話会、副社長対話会、企業戦略対話会、各部門との対話会、IT業界、契約、ロジカルシンキング、電話対応、資格取得支援、技術支援、新卒社員向けビジネススキル研修、新卒社員向けチームビルディング研修、新卒社員向けパワーポイント作成研修、新卒社員向け他者理解研修 (他己紹介)、新卒社員向けキャリアデザイン研修、新卒社員向けプレゼンテーション発表 (1年後のなりたい姿)、新卒新入社員向け入社1年目フォローアップ研修、新卒新入社員向け技術研修 など

※これらは一例です。講座・研修は、随時、アップデートしています。企画・開発中のもの、改修されるもの、終講するものなど含まれます。太字が既存の研修です。

APアカデミー体系図



キャリア相談室

上司に内緒で相談できるキャリア相談室※

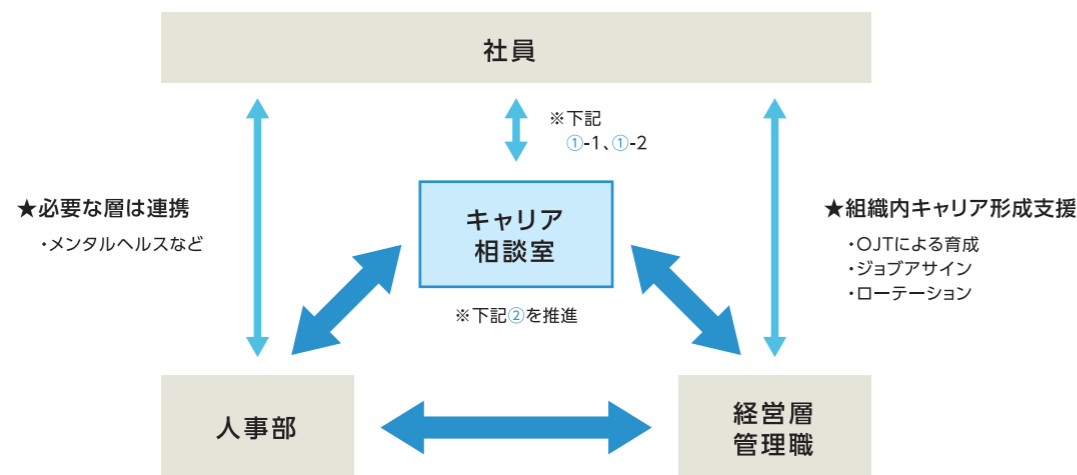
キャリア相談室とは

当社では「社員のキャリアビジョンと当社内の多職種・他業務とのマッチングをはかり、中立的な立場でキャリア実現をする若手社員のキャリア実現を支援し、若手エンジニアの早期離職をふせぐ」ことを目的として2018年よりキャリア相談室を開設しました。20～35歳までの社員に対し入社時、6か月、1年のタイミングでの面談を「必須」とし、国家資格を持つキャリアコンサルタント(社員)が面談を行います。現場常駐社員の利便性を高めるため、電話やビデオ会議での面談やカウンセラーが現場先に訪問して面談ができるようにしています。

面談をする上で重要なのが、中立的な立場であることと、話をしてもらえ環境を整えることです。査定に結びつかないよう人事から切り離すことで心理的安全性を確保し、守秘義務を徹底しています。

面談内容は文字起こしして言語化し、本人に議事メモとしてフィードバックを行います。キャリアにとどまらない悩み1つ1つに対しても、一緒に解決していくパートナーとして向き合います。内容によっては、本人に一語一句開示の了承をとった上でしかるべき方に共有することもあり、常に寄り添いながら解決に向けて対応することを心がけています。

また、これまでのキャリアを振り返りながら、自身の強みを業務の中でどのように活かすのかを具体的な行動計画に落とし込めるよう「キャリアデザイン研修」も実施しています。本研修では、強み診断ツール(ストレングスファインダー®)を使い、自身の強み・弱みを知ること、仕事における価値観などワークを通じて自身で見出すことを目的としています。



①.個人のキャリア開発支援

※①-1 キャリアよろず相談の実施

- ・社員の不安・迷いを受け止める(自分自身の思い込みを解消)
- ・キャリアチェンジ(本人希望)情報を事前にキャッチする

※①-2 キャリアプランニング実施

- ・自己理解の促進(価値観・興味・能力の整理)
- ・課題整理、視野の拡大

②.組織内のキャリア形成支援

研修一覧

技術研修カリキュラム

ネットワーク

- ネットワークセキュリティベーシック
- ネットワーク構築ベーシック
- SD-WAN研修 初歩編
- TUF ネットワーク
- コラム / TUFとは

クラウド・サーバー

- AZ-104試験対策講座
- Microsoft Azure入門
- TUF Azure
- コラム / Azureエンジニア100名体制を作る
- AWS 基礎から実践(WEBアプリケーション開発)
- Docker 環境構築
- コンテナ技術アカデミー#1 Dockerハンズオン講座
- コンテナ技術アカデミー#2 Kubernetes講座
- Ansible Infrastructure as Codeにおける構成管理
- OpenShift入門

プログラム自動化

- Pythonエンジニア 認定試験対策講座
- TUF 自動化基礎

セキュリティ

- セキュリティ系アカデミー(SSH, SSL/TLS)
- Secure Access Service Edge(SASE) 研修 #初級編

その他

- 監視系アカデミー (Zabbix, Grafana, Prometheus)
- ログ系アカデミー(Elasticsearch) #ログ収集入門編
- ログ系アカデミー(Elasticsearch) #基礎編
- ログ系アカデミー(Elasticsearch) #Elasticsearch, logstash 実践編
- ログ系アカデミー(Elasticsearch) #Kibana 実践編
- 運用設計ワークショップ(基礎編)
- インフラシステム設計・構築ワークショップ(要件定義編)
- インフラシステム設計・構築ワークショップ(構築・評価編)

連携研修カリキュラム

連携研修

- 外部研修(ビジネス)
- 外部研修(技術)

ビジネス研修カリキュラム

マインドセット

- キャリアデザイン研修
- ダイバーシティ&インクルージョン
- 心理的安全性
- 7つの習慣®ハイブリッドプロセスラーニング

ビジネススキル

- ロジカルシンキング
- 問題解決
- クリティカルシンキング
- 合意形成話法
- ファシリテーション
- H.O.L.C.
- 戦略的交渉力
- 戦略的対話力

企業理念とルールの理解

- イーピーコミュニケーションズの歴史
- 被評価者研修
- 人事制度解説
- 月イチコンプライアンステスト
- メンタルヘルスクア研修
- ハラスメント研修
- 投資教育研修
- セキュリティ研修

リーダーシップ

- リーダーシップ

新任管理職研修

- 新任管理職研修
- 気づき研修

マネジメント

- 1on1・信頼関係構築
- Management 3.0
- リーン・チェンジマネジメント

採用

- 社員紹介制度説明

新入社員研修

- 社長対話会
- 副社長対話会
- 企業戦略対話会
- エンジニアリングメンター室のご紹介
- 新卒社員向けビジネススキル研修
- 新卒社員向けチームビルディング研修
- 新卒社員向けパワーポイント作成研修
- 新卒社員向け他者理解研修(他已紹介)
- 新卒社員向けキャリアデザイン研修
- 新卒社員向けプレゼンテーション発表(1年後のなりたい姿)
- 新卒新入社員向け入社1年目フォローアップ研修
- 新卒新入社員向け技術研修

ネットワーク

研修一覧

- 01 ネットワークセキュリティベーシック
- 02 ネットワーク構築ベーシック
- 03 SD-WAN研修 初歩編
- 04 TUF ネットワーク
- 05 コラム：TUFとは

ネットワークセキュリティベーシック

ネットワーク環境においてサイバー攻撃や情報漏洩などのセキュリティリスクが高まっており、それに伴いセキュリティ業務に関する需要も高まっています。

講座概要

昨今、ネットワーク環境においてサイバー攻撃や情報漏洩などのセキュリティリスクが高まっており、それに伴い、セキュリティ業務に関する需要も高まっています。本講座ではネットワークセキュリティ概要や業務分野・内容などを学びます。

目的

- 比較的ハードルが高く感じるセキュリティ業務を身近に感じてもらう
- セキュリティ業務への関心を高める

カリキュラム

- セキュリティ概要
- 攻撃手法(サイバー攻撃)
- 防御手法(製品、機能、サービス)
- セキュリティ業務(業務事例)
- セキュリティ事例
- セキュリティ情報(用語、サイト)

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



ネットワーク構築ベーシック

ネットワークスキル向上のため、実際に構築を行いながら知識定着を目指す

講座概要

「概要の説明、課題の提示」→「自分で課題に取り組む」→「課題の解説」の流れで研修を進めていきます。
CCNA試験範囲の知識をCisco Packet Tracerを用いて課題に取り組みながらネットワーク構築スキルの習得を目指します。

※CCNAとはCisco社による認定資格であるCisco Certified Network Associateの略称

目的

以下のような方を対象に際に構築を行いながら理解を深めていく

- ネットワーク理解が浅くて困っている人
- CCNA取得し知識は身につけたが実作業経験が浅い人

カリキュラム

- Day1 : 事前課題の解説/VLANの概要/次回までの課題提示
- Day2 : 第1回課題の解説/ACLの概要/次回までの課題提示
- Day3 : 第2回課題の解説/HSRPの概要/次回までの課題提示
- Day4 : 第3回課題の解説/OSPFの概要の/次回までの課題提示
- Day5 : 第4回課題の解説/EIGRP/BGPの概要/次回までの課題提示
- Day6 : 第5回課題の解説/DHCPの概要/次回までの課題提示
- Day7 : 第6回課題の解説/NAPTの概要/次回までの課題提示
- Day8 : 第7回課題の解説/STPの概要/次回までの課題提示
- Day9 : 第8回課題の解説/EtherChannelの概要/次回までの課題提示
- Day10 : 第9回の解説

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください

SD-WAN研修 初歩編

SD-WANの基礎的な知識を習得

講座概要

SD-WANの基礎的な知識をCisco SD-WAN(Viptela)を軸に学習します。

※SD WAN (Software Defined Wide Area Network) とは、物理的なネットワーク機器で構築したWAN上に仮想的なWANを構築し、ソフトウェアを用いて管理する技術のこと
※Cisco SD-WANとは、SD-WANソリューションの開発・販売を行っているCisco社の製品名のこと

目的

- SD-WANを学習するにあたり「どこから学んでいけばよいか」を掴むため、初歩的なSD-WANの概要を習得し、今後の学習がスムーズに進行できるようになること

カリキュラム

- 当研修について
- ONUGとは
- SD-WAN 10の技術要件
- SD-WANの機能
- SD-WAN 実際のところ
- Cisco dCloudのご案内
- 質疑応答

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



TUF ネットワーク

ネットワーク詳細設計を通じてお客様と自社の双方にメリットを生み出す考え方を学ぶ
※TUFとはTechnical Use for the Futureの略称。

講座概要

ネットワークの業務は決められたパラメータを投入するだけでなく、お客様の目的に即した設計業務もあります。また、それを実行するには納期を守るリソースも必要です。本講座では詳細設計を通じて、お客様と自社の双方にメリットを生み出す考え方を学びます。

目的

- 詳細設計を通じて上流工程に触れ、受講者の今後のキャリアアップの一助となること

カリキュラム

- Day1 : 詳細設計とは何か?/求められる成果/Day1課題
- Day2 : Day1課題解説/お金とスケジュール/Day2課題
- Day3 : Day2課題解説/詳細設計の振り返り

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



TUF ネットワーク (上級)

ネットワーク基本設計書作成のコツを掴む
※TUFとはTechnical Use for the Futureの略称。

講座概要

ネットワークの業務は決められたパラメータを投入するだけでなく、お客様の目的に即した設計業務もあります。また、それを実行するには納期を守るリソースも必要です。本講座では基本設計書の例題から読み方や書き方を学びます。

目的

- お客様にヒアリングすべき内容はなにか?どのように説明をするのか?をイメージし、お客様とその先に居る人達にとって良いものと考えられるようになることを目的とします。

カリキュラム

Day1

- 1 オリエンテーション
- 2 自己紹介
- 3 基本設計書とは
- 4 V字モデルにおける基本設計と他工程との違い
- 5 機能要件と非機能要件
- 6 基本設計書に記載する項目
- 7 ケース①自宅のインターネット環境の見直し
- 8 Day1課題

Day2

- 1 Day1課題発表・解説
- 2 基本設計をするときに気を付けること
- 3 ケース②新規DCへのFW導入
- 4 Day2課題

Day3

- 1 Day2課題発表・解説
- 2 本研修で学んだ知識の活用方法
- 3 基本設計書とはなにか?

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



Column

コラム

TUF(Technical Use for the Future)研修とは

職務経歴書に記載できる実績を社内研修で培う

APアカデミーが抱えていた課題

社内大学であるAPアカデミーの技術研修は、これから技術を習得しようとする人の取っかかりとしては、とてもよい制度です。しかし残念ながら、その研修を受講するだけではお客様から“実績”として認めていただくことはできません。これは、APアカデミーの技術研修に限らず、社外の有償の研修や技術資格も同じ。即戦力を求めるお客様が重視するのは『何を勉強したのか』よりも、『どんな運用を、構築を、設計を経験したのか』という“実績”です。

では実績を積むために必要なものは何か——それは“案件”です。

しかし、案件は実績がないとなかなかいただくことができない。そんなスパイラルが課題となっていました。

業務実績を積める「TUF研修」

2018年から始まったこのTUF研修の目的は「職務経歴書に記載できる実績づくり」。

実施する技術領域は事業計画や世の中のトレンドなどを鑑みて決められます。

研修の進め方は「これをこうすればこうなります」というチュートリアル的な内容ではなく、「こんな感じのものをつくってください」と要件だけを提示し、そのプロセスは一切示さず、受講者自身がとことん自分で考えて手を動かすようなカリキュラムになっています。

カリキュラムによって一人で何かを構築するパターンもありますが、受講生同士でレビューをしあったり不明点を教えあったり、講師に質問したりというように、ただ黙々と手を動かすだけでなく、様々な人たちとコミュニケーションを取りながら進めるというのもひとつの特徴です。

これはエンジニアの仕事において、コミュニケーションは技術と同じくらい重要なスキルであり、そういったスキルもこの研修を通じて高めて欲しいと考えているからです。

TUF研修による効果

キャリアアップの実現

- Windows系サーバーの運用保守業務からパブリッククラウド設計・構築業務へ
- 情シスでの申請・調達・調整オペレーションからクラウド基盤の運用へ
- オンプレシステムの輪番運用業務から、上流の設計・構築業務へ

クラウド・サーバー

研修一覧

- 01 AZ-104試験対策講座
- 02 Microsoft Azure入門
- 03 TUF Azure
- 04 コラム：Azureエンジニア100名体制を作る
- 05 AWS 基礎から実践 (WEBアプリケーション開発)
- 06 Docker 環境構築
- 07 コンテナ技術アカデミー#1 Dockerハンズオン講座
- 08 コンテナ技術アカデミー#2 Kubernetes講座
- 09 Ansible Infrastructure as Codeにおける構成管理
- 10 OpenShift入門

AZ-104試験対策講座

AZ-104取得に必要なAzure管理者レベルの知識を習得

講座概要

本講座ではAZ-104模擬試験を通して、AZ-104取得に必要なAzure管理者レベルの知識の習得を目指します。

※AZ-104 : Microsoft Azure Administratorは、マイクロソフト社の認定資格試験でありMicrosoft Azureの管理者・技術者をめざす方向けの資格です。

目的

- 事業部戦略に則りAzureエンジニア育成を進める
- Azure管理者レベルの知識の習得、およびAZ-104取得を目指す

カリキュラム

下記5項目について、模擬試験および解説を実施

- 1 Azureアイデンティティおよびガバナンスの管理
- 2 ストレージの作成と管理
- 3 Azureコンピューティング リソースの展開と管理
- 4 仮想ネットワークの構成と管理
- 5 Azureリソースの監視とバックアップ

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



Microsoft Azure入門

Azureの特徴や強み、初歩的な操作を学習

講座概要

Microsoftが展開しているAzureは、2019年以降驚異的な躍進を遂げています。本講座では、Azureの特徴や強み、初歩的な操作を学習し、知識の習得を目指します。

※Microsoft Azureは、Windowsなどの開発・販売を行っているマイクロソフト社が提供するクラウドサービスです。正式名称は「Microsoft Azure」です。

目的

- マルチクラウドエンジニアとして業務を行うためには複数のクラウドに関する知識が求められます。
- 本講座でAzureの概要を学ぶことで、Azureと他クラウドの比較を行えるスキルを身につけることを目指します

カリキュラム

- Microsoft Azureの特徴と、他Cloudとの比較
- Microsoft Azureハンズオン

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



TUF Azure

Azureを利用した実践的な設計・構築案件の体験を通じて知識を習得
※TUFとはTechnical Use for the Futureの略称。

講座概要

Microsoftが展開しているAzureは、2019年以降驚異的な躍進を遂げています。

本講座では、Azureの基本的なコンポーネントの仕様理解した上で、要件に基づいたオンプレミス環境からAzure環境への移行案件の体験を通じ、知識の習得を目指します。

※オンプレミスとは、on-premises (構内で) という英語表現由来のIT用語です。情報システムを自社設備内で完結して管理・運用することを意味します。
※クラウドとは、従来自社設置し管理・運用しているオンプレミス環境を専門業者との契約により、自社のシステムに必要な分だけ利用するサービスのことで、有名なクラウドサービスとしてAWS、Azureなどがあります。

目的

- Azureの基本的なコンポーネントの仕様を理解し扱えるようになる
- 実践的な設計・構築案件を経験してもらい、Azureを利用したSI案件のイメージをつかむ
- 自身の市場価値をあげるキッカケにする

※SIとはシステムインテグレーションの略であり、顧客の使用する情報システムの企画、設計、開発、構築、導入、保守、運用などを一貫して請け負うサービスのこと。

カリキュラム

Day0 : ルール説明、事前課題の説明等

Day1 : 事前課題解説、構築案件課題の内容説明

Day2 : 構成図(As-Is→To-Be)各自発表、講師解説

Day3 : 作成した構成図を基に実際に構築した環境を各自発表、講師解説

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



Column

コラム

Azureエンジニア100名体制を作る

弊社では日本マイクロソフトと連携をして、企業のクラウドネイティブ内製化支援を進めております。2021年度の事業施策としてAZ-104取得者100名体制を確立するべく各種研修を提供、サービスの実績に加えこういった取り組みが評価され、2021年8月には日本マイクロソフトのパートナー制度「Microsoft Partner Network (MPN)」における、「Gold DevOpsコンピテンシー」を取得するに至りました。

「クラウドネイティブ内製化支援サービス with Azure Kubernetes Service」とは

AKS (Azure Kubernetes Service) など技術のみの単純提供ではなく、お客様と共に業務改善・改革を実施、内製化に向けた技術やマインドセット等のトレーニングを通じて、クラウドネイティブ文化をともに作り上げていくことを特徴としています。

Gold DevOpsコンピテンシーとは

日本マイクロソフトが提供する「Microsoft Azure」の展開において、優れた技術力、専門性、販売実績を証明する称号です。この度の「Gold DevOpsコンピテンシー」の取得により、当社がこれまで手掛けてきたMicrosoft Azureを活用したクラウドネイティブなシステムの構築やアプリケーション開発支援の実績と、Microsoft Azureの認定資格取得者数(1年半で155名が取得)など人材育成との更なるシナジーが期待されます。



AWS 基礎から実践 (WEBアプリケーション開発)

AWSサービスの使い方を理解するために、AWSの基本知識を学習し、
実際の案件に基づいたサーバーレス環境下でのWEBアプリケーションの構築を経験する

講座概要

AWS案件に関わりたいと思い基本的なサービスを学習するも、
実際にどのようにサービスを連携して使用するか理解することは難しいです。
本講座ではAWSサービスを基礎から学び、サーバーレスなWEBアプリケーションを構築することで、
AWSの案件参画のためのスキルを身に着けます。

目的

- AWS 基礎知識を深め、実践的スキルを身に付ける
- WEBアプリケーションについての理解を深める。

カリキュラム

〈 座学 〉

- AWSとは
- AWSサービス紹介

〈 ハンズオン 〉

- Webアプリケーション構築

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



コンテナ技術アカデミー#1 Dockerハンズオン講座

DevOpsエンジニアへの第一歩として、Dockerハンズオンを通じてコンテナの活用方法を学習する
※DevOps (デブオプス)とは「開発チーム (Development) と運用チーム (Operations) がお互いに協調し合うことで開発・運用する
ソフトウェア/システムによってビジネスの価値をより高めるだけでなく、そのビジネスの価値をより確実に迅速にエンドユーザーに届け続ける」という概念です。

講座概要

本講座では以下について学習をします。

- Dockerの基本知識の学習
- コンテナ構築ハンズオン

※Docker (ドッカー)は、コンテナ仮想化を用いてアプリケーションを開発・配置・実行するための
オープンソースソフトウェアあるいはオープンプラットフォームです。

目的

- コンテナ操作の基本的な知識をハンズオンを通して学習していく

カリキュラム

〈 ハンズオン 〉

- AzureVM作成、Docker環境インストール
- Docker基本操作
- マウント、ネットワーク
- Dockerfile、カスタムイメージ作成、push
- 複数コンテナの連携(PHP&MySQL)、DockerCompose

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



コンテナ技術アカデミー#2 Kubernetes講座

コンテナを実環境で運用していくために不可欠となるコンテナオーケストレーションシステムの一つであるKubernetesについて座学とハンズオンを通じて理解を深める

※Kubernetes (クバネティス)とは、宣言的な構成管理と自動化を促進し、コンテナ化されたワークロードやサービスを管理するための、ポータブルで拡張性のあるオープンソースのプラットフォームです。

講座概要

本講座では以下について学習をします。

- Kubernetesの基本知識の習得
- コンテナ基盤の構築ハンズオン

目的

コンテナを実環境で運用していくために不可欠となるコンテナオーケストレーションシステムの一つであるKubernetesについて座学とハンズオンを通じて理解を深める

カリキュラム

- Kubernetes概要
- Kubernetesリソース
- クラスター構築ツール
- レジストリ
- ハンズオン
- Kubernetes関連資格について

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



コンテナ技術アカデミー#3 AKS入門講座

AzureのマネージドKubernetesサービスであるAKSの概要理解を深めるために、実環境を模した環境構築を通じ、モダンなコンテナアプリケーション基盤を体感する

講座概要

本講座ではAzureのマネージドKubernetesサービスであるAKSについて、実環境を模した環境構築を体験することで、概要理解を深めるとともに今後の応用編につながる前提知識の習得を目指します。

目的

- AKSのサービス概要を理解する
- AKSの構築方法を体験する
- 今後展開予定の応用編に向けての前提知識を取得する

カリキュラム

「受講者のPCからAKS上のWebアプリを利用できる状態にすること」を目標に以下のカリキュラムを実施

- 1 VM上にDockerを使ったアプリケーション開発環境を構築 (Step1、Step2)
- 2 AKSと様々なAzureサービスを組み合わせてコンテナオーケストレーション基盤を構築 (Step3、Step4、Step5、Step6)
- 3 AKSの運用管理入門 (Step7)

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



Web App入門 アカデミー

普段、何気なく触れているWebシステムの仕組みについて理解する

講座概要

本講座では私たちが普段、何気なく触れているシステムがどのような仕組みで動いているのかを学びます。Linuxに触れたけど、何していいかわからない、ITに興味があり業界に入ったけど、まだ何もわからないといった方たちに向けた講座です。

目的

- Webシステムはどのように動いているのかを、スタンダードなWeb3層システムを例にして覚える
- 実際に手を動かして、Web3層システムを作ってみる

カリキュラム

〈座学〉

- 1 サーバーについて
- 2 Web3層構造
- 3 Webサーバ
- 4 アプリケーションサーバ
- 5 データベースサーバ

〈ハンズオン〉

- DjangoとGunicornについて

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



Ansible Infrastructure as Codeにおける構成管理

Infrastructure as Codeの考え方や基本的なAnsible Playbookの書き方を習得し、サーバーの自動構築の実現を体感する

講座概要

Infrastructure as Code (IaC)の思想に基づく代表的なツールであるAnsibleの概要と使い方を学習します。ハンズオンではインフラの構成を定義するPlaybookの書き方を学び、サーバー構築の自動化を実践します。

※Ansibleは、RedHat社が開発するオープンソースの構成管理ツールである。
サーバーを立ち上げる際、あらかじめ用意した設定ファイルに従って、ソフトウェアのインストールや設定を自動的に実行する事が出来、特に大規模なコンピュータ・クラスターを構築する時に、時間の短縮やミスの削減に有用です。

目的

- Infrastructure as Codeにおける構成管理の概念を理解する
- Ansibleの概要を理解する
- Ansibleの操作方法を習得する
- Playbookの書き方を理解する

カリキュラム

〈座学〉

- べき等性のはなし
- Infrastructure as Code
- Ansibleとは?
- 構成管理ツールの比較
- 各コンポーネント説明
- モジュール紹介

〈ハンズオン〉

- Adhocでのモジュール操作
- Playbook
- 演習 (WordPressのインストール)

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



OpenShift入門

エンタープライズKubernetesの中で最も広く使われているOpenShiftの基礎をハンズオン形式で学びます
Kubernetesに触れたことがない初心者でも、クラウドネイティブなインフラ開発を体験することができます

講座概要

- コンテナ管理基盤として「Kubernetes」、「OpenShift」、「Rancher」など多様なツールが増え、またクラウドマネージドなコンテナ基盤も登場してきている
- この講座ではRed Hatが提供するコンテナ基盤「OpenShift」を用いてコンテナ作成、管理を学習する

※Kubernetesは、宣言的な構成管理と自動化を促進し、コンテナ化されたワークロードやサービスを管理するための、ポータブルで拡張性のあるオープンソースのプラットフォームです。

※OpenShiftは、RedHat社が提供しているエンタープライズ対応のKubernetesコンテナプラットフォームで、Docker、Kubernetes、Dockerレジストリなどで構成されるCaaS(Container as a Service)基盤です。CaaSとはPaaS(Platform as a Service)の中でも、特にコンテナサービスに重点を置いたサービスを意味します。

※Rancherは、コンテナ技術を採用しているチーム向けのコンテナ管理のプラットフォームです。

目的

- コンテナ管理基盤である「OpenShift」について知識を深める
- Kubernetesベースのリソースについて学習する(Pod、Deploymentなど)
- OpenShiftのハンズオンを実施し、実際の操作イメージを持つ

カリキュラム

〈座学〉

- OpenShiftとは
- OpenShiftの構成

〈ハンズオン〉

- クライアント操作(WebGUI、CLI)
- オブジェクト作成(Deployment、Route、PV)
- アプリケーションデプロイ

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



プログラム自動化

研修一覧

- 01 Pythonエンジニア 認定試験対策講座
- 02 TUF 自動化基礎



Java研修(基礎編)

これからJavaを始めてみたい方、Java基礎を復習したい方に向けて、基礎の定着と今後自分でプログラムを作る土台作りを提供する講座です

講座概要

本講座はUdemyの講座、座学、ハンズオンの3構成となります。UdemyでJavaの基礎を一通り学びながら、座学にてJavaの要であるオブジェクト指向とそれを使った組み立て方を学びます。最後にハンズオンで実際に1からプログラムを作成します。

※JavaとはC言語をベースに開発されたプログラミング言語です。IT市場を牽引するGoogleが開発に用いる三大言語（Java、C++、Python）の一つとしても知られています。

目的

- Javaの基礎を身に着ける
- プログラミングを始めるきっかけを作る
- 1からプログラムを作る方法を知る
- オブジェクト指向を使った組み立て方の楽しさを知る

カリキュラム

講座期間中はUdemyの講座含め、講師が質問対応やソースコードレビューを通してサポートしますので、これからJavaを始めてみたい方にも受けていただける講座です。

■ 社外eラーニング会社であるUdemyを利用した学び(1ヵ月半)

対象講座は以下を受講

- ・Java超初心者でも大丈夫!挫折させないJavaプログラミング講座～基礎固め編～
- ・これなら絶対理解できる!挫折させないJavaプログラミング講座～オブジェクト指向編～

■ 座学(1回)

- ・オブジェクト指向とは
- ・クラス、メソッド、インスタンス
- ・カプセル化(getter/setter)
- ・継承

■ ハンズオン(2回)

ターン制コマンドバトルゲームを作ってみよう

- ・1日目:プログラムの作り方講座
プログラムの登場人物とシナリオを考えてみよう
- ・2日目:シナリオに沿ってプログラムを作成しよう

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



Pythonエンジニア 認定試験対策講座

基本文法から始まる試験範囲を網羅的に学習し資格取得を目指す

講座概要

2017年度よりPython3 エンジニア認定基礎試験が開始しました。

本講座では基本文法から始まる試験範囲を網羅的に学習し、資格取得を目指します。

※Python(パイソン)はプログラミング言語の一つであり、マイナビが実施した「2021年ITエンジニアが学びたいプログラミング言語」ではPythonがJavaをおさえて1位となっています。Pythonの資格認定試験としては「一般社団法人Pythonエンジニア育成推進協会」が運営する「Python3 エンジニア認定基礎試験」があります。

目的

- Python3 エンジニア認定基礎試験の資格試験範囲を網羅的に学習する
- 本講座受講後にはPython資格試験に合格できるレベルに到達できるようにする

カリキュラム

- 第1回 模擬試験
- 第1回 模擬試験 解答・解説
【各自復習・チュートリアル確認】
- 第2回 模擬試験
- 第2回 模擬試験 解答・解説
【質疑応答・総括】

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



TUF 自動化基礎

自動化の概念、並びに自動化にて使われる頻度の高い主要ツールの基本的な操作を知識を習得
※TUFとはTechnical Use for the Futureの略称。

講座概要

本講座では、自動化の概念、並びに自動化にて使われる頻度の高い主要ツールの基本的な操作を学習します。
また、各種ツール間の連携も学習していき、各顧客環境に適した運用改善や自動化の実装を提案できるエンジニアとなることを目指します。

目的

AWS SAAなどのクラウド資格は取得したが、業務などを通して経験を得ることができない社員や改めて学びたい社員を対象に、実践的な課題を繰り返し実施していくことで、自動化やクラウド案件に携われるエンジニアを育成します。

※AWS SAAとはAWS 認定ソリューションアーキテクト - アソシエイトのこと。

カリキュラム

- 自動化の考え方
- 各ツールの概要、および使い方
- 各ツールを組み合わせた自動化実装手法

※リモートで顔を合わせるのが2回、その他に8週に渡って課題を出してSlackやRedmine上でやり取りをしていきます
※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



PL900試験対策

PowerPlatformの初級資格であるPL900の試験に特化した対策講座です

講座概要

講座ではPowerPlatformの各コンポーネントの説明と、初級資格であるPL900に出題される問題に取り組み、解説をおこないます。
試験対策に特化した研修ですが、PowerPlatformがどんなものなのか概要を理解することができるようになる講座です。

※Microsoft PowerPlatformとは
・ローコードでのアプリ開発
・RPAのようなワークフローの自動化
・高度な分析のビジュアル化(それを自動でWEBポータルに張り付けたり)などを実現していけるかなり実用的なプラットフォームです。

目的

- PowerPlatformの概要を理解する
- PL900の出題傾向を理解する

カリキュラム

〈 座学 〉

- 1 概要
- 2 DataVerseとは
- 3 AI builderとは
- 4 PowerBIとは
- 5 PowerAppsとは
- 6 PowerAutomateとは
- 7 PowerVirtualAgentsと
- 8 過去問題演習

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



セキュリティ

研修一覧

- 01 セキュリティ系アカデミー (SSH、SSL/TLS)
- 02 Secure Access Service Edge(SASE) 研修 #初級編

セキュリティ系アカデミー (SSH、SSL/TLS)

SSH、SSL/TLSについて座学・ハンズオンを通して基礎的な理解できるようにする

講座概要

本講座では日常生活で利用されている基本的なセキュリティの技術であるSSH、SSL/TLSの理解を深めていただきます。

※SSH、SSL/TLSとは、通信の暗号化をするためのセキュリティ関連のプロトコルの1つです。

目的

- セキュリティの基礎知識の理解を深める

カリキュラム

Day1 : SSHに関する用語説明とハンズオン

- SSHの概要説明
- SSHに関する専門用語について説明
- ハンズオン

Day2 : 一回目の復習とSSLに関する用語説明とハンズオン

- 第1回に説明した内容の復習
- SSLの概要説明
- SSLに関する専門用語について説明
- ハンズオン説明→ハンズオンの流れで実施します。

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



Secure Access Service Edge(SASE) 研修 #初級編

～次世代クラウドセキュリティのリーダー Zscaler編～

講 座 概 要

昨今のネットワークの情勢に置いて注目されている『SASE』とは何か、更にZscalerでの実装や、機能についてハンズオンを通じてSASEで定義された領域の機能を体験することを目指します。

※Secure Access Service EdgeはSASE(サッシー)と呼ばれ、データセンターではなく接続元に直接クラウドコンピューティングサービスとして
ワイドエリアネットワークとセキュリティ制御を提供するために使用されるテクノロジーです。
※Zscaler(ゼットスケーラー)とは、クラウド上で利用できるセキュリティソリューションです。

目的

- SASEについて何を言っているのか理解することができ、自身で「SASE」についての調査ができるようになる
- SASE製品のひとつであるZscalerをハンズオンを通じて、次世代クラウドセキュリティを体感してもらう

カリキュラム

Day1

- ① 従来のセキュリティ環境とは
- ② SASEとは
- ③ SASEの構成要素とは
- ④ Zscalerとは
- ⑤ Zscaler機能について

Day2

- ① シナリオ説明
- ② Zscalerへの接続
- ③ 実施する設定項目について
- ④ 自端末の環境での検証

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



その他

研修一覧

- 01 監視系アカデミー (Zabbix、Grafana、Prometheus)
- 02 ログ系アカデミー (Elasticsearch) # ログ収集入門編
- 03 ログ系アカデミー (Elasticsearch) # 基礎編
- 04 ログ系アカデミー (Elasticsearch) # Elasticsearch、logstash 実践編
- 05 ログ系アカデミー (Elasticsearch) # Kibana実践編
- 06 運用設計ワークショップ (基礎編)
- 07 インフラシステム設計・構築ワークショップ (要件定義編)
- 08 インフラシステム設計・構築ワークショップ (構築・評価編)

監視系アカデミー
(Zabbix、Grafana、Prometheus)

運用監視サービス (主に死活・SNMP・リソース監視) について理解する

講座概要

本講座ではサーバー・ネットワーク機器の監視サービスとその根幹にあるSNMPやMIBについて、講義とハンズオン環境を用いて、監視マネージャ・エージェントの構築、監視環境の構築、疑似アラート出力して動作などについて学びます。

※運用監視サービスとはサーバーやネットワーク機器など、システム全体の監視を行い、24時間365日体制でお客さまシステムの安定稼働をサポートするサービスです。
Zabbix、Grafana、Prometheusとはこの運用監視サービスでよく利用されているツールの1つです。

目的

- 運用現場に必要なトラブルシューティングに強いエンジニアとなる
- 慣例で設定していた、監視の閾値などを理解したエンジニアとなる

カリキュラム

Day1 : 座学による監視サービスについての説明

- SNMPとは
- MIBとは
- 監視の種類とは(etc)

Day2 : 1回目の復習とハンズオン

- 実際にMIB値を取得してみよう
- 監視マネージャを使ってみよう

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



ログ系アカデミー(Elasticsearch) # ログ収集入門編

ログ収集って何ができるの?どんなメリットがあるの?それをElasticsearchと関連製品をメインに解説します
無償で使える便利な機能や、有償機能についても触れます

講座概要

色々なデータを蓄積、可視化することで、作業や調査の効率化、自動化が可能になります。
そのための手法であるログ収集(ツール)のついて説明します。

※elastic製品とはElastic社が提供するオープンソースの製品のことであり、その製品の1つであるkibanaとはデータ分析可視化ツール、Elasticsearchとはリアルタイム検索・分析エンジンです。

目的

- ログ収集でできることを知り、かつログの可視化を体験し、ログ収集に興味を持ってもらう
- ログ収集ツールを実業務で活用したい方に、基礎知識を身につけてもらう

カリキュラム

〈座学〉

- ログ収集でどのような事ができるのか
- ログ収集は業務でどのように活用できるのか(実例を挙げて説明)
- Elasticsearch、Logstash、Kibanaの概要

〈ハンズオン〉

- Kibanaでのログ可視化体験
- Kibanaによるログの可視化
(Discover、Visualiza Library、Dashboard)

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



ログ系アカデミー(Elasticsearch) # 基礎編

Elasticsearch、Logstash、Kibanaによるログ収集の基礎を学びます
最低限の設定、利用方法を覚え、自分で一からログ収集環境が作れるようになることが目的です

講座概要

Elasticsearch、Logstash、Kibana によるログ収集環境の構築手法を学びます。
ログ収集環境構築の基礎を学び、実際にその流れを体験できます。

※elastic製品とはElastic社が提供するオープンソースの製品のことであり、その製品の1つであるkibanaとはデータ分析可視化ツール、Elasticsearchとはリアルタイム検索・分析エンジンです。

目的

- Elasticsearch関連ツールを使ったログ収集環境の構築ができるようになること
- 収集、蓄積、可視化のツールの仕組みを覚える

※各ツールの詳細な設定方法は実践編で行います。

カリキュラム

〈座学 & ハンズオン〉

- ELK製品(Elasticsearch、Logstash、Kibana)のインストールと初期設定
- ELK製品を使い、収集、蓄積、可視化を試す
- Elasticsearchの簡単なCUIコマンド
- 最低限のアクセス制御

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



ログ系アカデミー (Elasticsearch) # Elasticsearch、logstash 実践編

Elasticsearch、Logstash によるログ収集の実践的な使い方を学びます
実際の運用・開発の現場を意識した設定方法を学び、即戦力になれる力を身につけましょう

講座概要

Elasticsearch、Logstash、Kibana によるログ収集の実践的な使い方を学びます。
ログ収集を実業務で使う方、これから導入したい方が対象です。

※elastic製品とはElastic社が提供するオープンソースの製品のことであり、その製品の1つであるkibanaとはデータ分析可視化ツール、Elasticsearchとはリアルタイム検索・分析エンジンです。

目的

- Elasticsearch関連ツールについて、実業務でも通用する活用方法を習得する
※Kibanaの実践的な操作方法については、別途Kibana実践編にて実施予定です。

カリキュラム

〈 座学 & ハンズオン 〉

- ELK製品 (Elasticsearch、Logstash、Kibana) の詳細な設定
- Elasticsearchのクラスタ構成 (必要性と構築方法)
- Logstashのconfファイルの書き方について (よく使うPluginをメインに説明)

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



ログ系アカデミー (Elasticsearch) # Kibana 実践編

Kibana による、実践的なログの操作方法を学びます
実際の運用の現場で使える操作方法や知識を習得し、即戦力になれる力を身につけましょう

講座概要

昨今、運用の現場において、ログの調査にKibanaを使う現場は増えています。
本講座では、即戦力となるようにKibanaの詳細な使い方を学びます。

※elastic製品とはElastic社が提供するオープンソースの製品のことであり、その製品の1つであるkibanaとはデータ分析可視化ツール、Elasticsearchとはリアルタイム検索・分析エンジンです。

目的

- 実際の運用の現場で使うKibanaの操作方法を学び、実業務でも通用する技術を習得する

カリキュラム

〈 座学 & ハンズオン 〉

以下機能の実践的な使い方を学ぶ

- Discover (検索)
- Visualize Library (可視化)
- Dashboard (レポート作成)
- アクセス制御

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



運用設計ワークショップ(基礎編)

運用保守の全ての基準となる運用仕様書を作成し、運用設計者への第一歩となる基礎を学びます

講座概要

運用対応者もしくはSI対応者が運用設計を行うに当たり、必要となる知識を体系的に学びます。学習した知識をもとに、運用設計書の立て付けを作成して頂き運用設計を始める基礎をワークショップを通じて学習します。

目的

- 運用設計領域へとステップするにあたり、必要な知識を学ぶ
- 運用設計と改善の繋がりを理解し、業務改善の糸口をつかむ
- 設計・構築から運用にシームレスに移行する為に必要とされる項目を理解する
- 一般的な運用設計書の項目作成を行い、その内容を理解する

カリキュラム

Day1

- 自己紹介
- 講座スコープ
- 運用設計とは
- 運用設計の意図
- 非機能要求
- ITIL
- 運用設計の時期

Day2

- 前回のおさらい
- 運用保守とは
- 運用設計書作成ワークショップ

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



インフラシステム設計・構築ワークショップ(要件定義)

仮想の案件をベースに、顧客のインフラシステム納品に向けた要件定義・提案フェーズの業務をワークショップ形式を交えた形で学習します

講座概要

仮想の案件をベースに、顧客のインフラシステム納品に向けた要件定義・提案フェーズの業務をワークショップ形式を交えた形で学習します。

顧客の真の課題に基づいたシステムを納品できることを想定し、普遍的なスキルである設計ノウハウを実技を交えて実施します。

目的

- 将来の技術の変化に対応できる普遍的なスキルを獲得する
- 要件定義フェーズを確実に実施し、顧客と自組織に利益をもたらす要件定義の考えとスキルを身につける
- 運用エンジニアも、設計・構築の工程スキルの基礎を身につける
- インフラシステム設計・構築エンジニアの断片的知識/スキルを体系的に整備する

カリキュラム

〈座学〉

- 事前に要件定義講座をオンラインで視聴
 - ・要件定義とは
 - ・RFPについて
 - ・ヒアリングとは
 - ・提案とは
 - ・事前課題発表

〈ハンズオン〉

- 講座開催当日に要件定義ハンズオン実施

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



インフラシステム設計・構築ワークショップ(構築・評価編)

仮想の案件をベースに、顧客のインフラシステム納品に向けた設計・構築・評価フェーズの業務をワークショップ形式を交えた形で学習します

講座概要

仮想の案件をベースに、顧客のインフラシステム納品に向けた設計・構築・評価フェーズの業務をワークショップ形式を交えた形で学習します。

顧客の真の課題に基づいたシステムを納品できることを想定し、普遍的なスキルである設計ノウハウを実技を交えて実施します。

目的

- 将来の技術の変化に対応できる普遍的なスキルを獲得する
- 要件定義フェーズを確実に実施し、顧客と自組織に利益をもたらす要件定義の考えとスキルを身につける
- 運用エンジニアも、設計・構築の工程スキルの基礎を身につける
- インフラシステム設計・構築エンジニアの断片的知識/スキルを体系的に整備する

カリキュラム

〈座学〉

■ 事前に設計・構築・評価講座をオンラインで視聴

設計

- ・要件定義から基本設計への流れ
- ・基本設計の流れ

構築・評価

- ・品質管理における評価の必要性
- ・テスト計画/テスト設計
- ・テスト手法

〈ハンズオン〉

■ 講座開催当日に要件定義ハンズオン実施

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



外部研修(ビジネス)

各種ビジネススキルを提携研修(eラーニング)を利用して学習

【ビジネススキル】

外部研修会社(株)ラーニングエージェンシーと法人契約を締結し、いつでもどこでも時間を問わずに受講できるビジネススキル研修を提供しております。

研修一覧 (一部のみ記載)

■ 報連相

■ ビジネスマナー研修

■ ビジネスライティング研修

■ ポジティブリスニング

■ ビジネス・トーキング

■ タイムマネジメント

■ ファシリテーション入門

■ 仕事の進め方の基本

外部研修(技術)

各種技術スキルを提携研修(eラーニングなど)を利用して学習

【技術研修】

米国法人Udemy,Inc.が運営するオンライン教育プラットフォームにある各種IT系コンテンツを社外eラーニングサイトとして提供しております。

研修一覧 (一部のみ記載)

- はじめてのLinuxサーバー構築運用入門
- MySQLでデータベース基礎とSQLをゼロから学ぶ!挫折させないSQL講座
- ゼロからはじめるDockerによるアプリケーション実行環境構築
- Docker + Kubernetesで構築するWebアプリケーション実践講座
- 米シリコンバレーDevOpsエンジニア監修!超Kubernetes完全入門(2020)
- 作りながら覚えるMicrosoft Azure入門講座 (IaaS編)
- 作りながら覚えるMicrosoft Azure入門講座 (PaaS編)
- AWS:ゼロから実践するAmazon Web Services。手を動かしながらインフラの基礎を習得
- AWSとPackerで実現するInfrastructure as Code
- AWSとTerraformで実現するInfrastructure as Code
- Ansibleによるシステム構成管理:基礎からCloud Modulesを使ったAWS構築まで
- Cisco Devnet Associate DEVASC 200-901 Pr Exam Questions Test(英語)
- プログラミング初心者でも安心、Python/Django入門講座
- アジャイル・プロジェクトマネジメント短期集中講座
- 米国AI開発者がゼロから教えるDocker講座
- 米国AI開発者がやさしく教えるGit入門講座
- Ansible入門
- Cisco Devnet Associate Practice Exam Question DEVASC 200-901
- Linuxサーバー構築入門(LinuCLレベル1, LPI-Japan認定教材)

マインドセット

研修一覧

- 01 キャリアデザイン研修
- 02 ダイバーシティ&インクルージョン
- 03 心理的安全性
- 04 7つの習慣® ハイブリッド・プロセス・ラーニング

ダイバーシティ&インクルージョン

ダイバーシティについて正しい理解を深める

講座概要

ダイバーシティ&インクルージョンを進めていくには、まず「ダイバーシティ」を正しく理解することが重要です。なぜならば、正しい知識が無いために、知らず知らずのうちに人を傷つけていることがあるからです。一緒に働く仲間を守り、誰もが安心して働ける環境を作っていくため無意識の偏見(アンコンシャスバイアス)に気づき、行動ができるように理解を深めていただきます。

目的

- LGBTQについての基礎知識を学ぶ
- 「自分の言動が誰かを傷つけることはないか」という想像力を磨く
- 無意識の偏見への気づきと行動変容のきっかけにする

カリキュラム

- 1.LGBTQとSOGIの基礎知識
- 無意識の偏見とLGBTQ

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



アンコンシャスバイアス研修

自分自身のアンコンシャスバイアスに気づき、対処していくための講座です

講座概要

アンコンシャスバイアス(無意識の思いこみ)は日常にあふれていて、誰にでもあるものです。あることそのものが悪いわけではありませんが、気づかずにいることで、人を傷つけていたり、チャンスを逃すなど影響は様々におよびます。この概念を理解し、自分自身のアンコンシャスバイアスに気づき、対処していくための講座です。

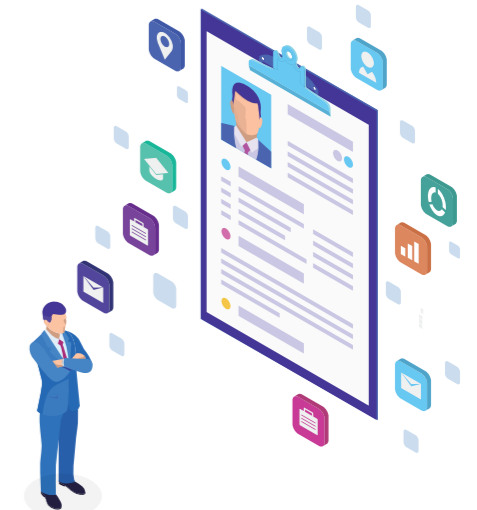
目的

ダイバーシティ&インクルージョンの推進および、私たち一人ひとりが固定観念から脱却することにより、イノベーションをより推進しAPCの事業を拡大していくことを目的としています。

カリキュラム

- アンコンシャスバイアスとは何か?
- アンコンシャスバイアスに気づかずにいると何が問題となるのか?
- アンコンシャスバイアスへの対処法
- わたしを主語にアンコンシャスバイアスに向き合い続けること

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



アサーティブコミュニケーション

お互いを尊重しながら意見を交わすことができる効果的かつ効率的なコミュニケーションについて学びます

講座概要

アサーティブ(assertive)とは、「自己主張すること」という意味です。
ここでは、自己主張とは自分の主張を一方向的に述べて相手を論破するということではなく、相手を尊重しながら適切な方法で自己表現を行うことを指します。
お互いを尊重しながら意見を交わすことができる効果的かつ効率的なコミュニケーションと言えます。

目的

お互いの主張や立場を大切にしながら自己主張・自己表現方法を学ぶことで
(アイデア・感想・反対意見など)言いたいことがあるのに伝えられずモヤモヤする、
つつい強くなりすぎて相手を萎縮させてしまい後悔するなどのことがなくなり、
効果的かつ効率的なコミュニケーションをとることができるようになる。

カリキュラム

- アサーティブ・コミュニケーションとは
- 3つのタイプの自己表現
- 「言わない」という選択もある
- 心の中で対等に向かい合う
- アサーティブな自己表現をするために

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



心理的安全性

心理的安全性について理解を深める

講座概要

心理的安全性なチームとは「生産的で良い仕事をするため、健全に意見を戦わせることができるチーム」のことです。
エーピーコミュニケーションズが目指している「自己組織化された組織」を実現するためにも重要な要素と考えています。
本講座では心理的安全性を高める行動ができるように言葉の理解を通じて学んでいただきます。

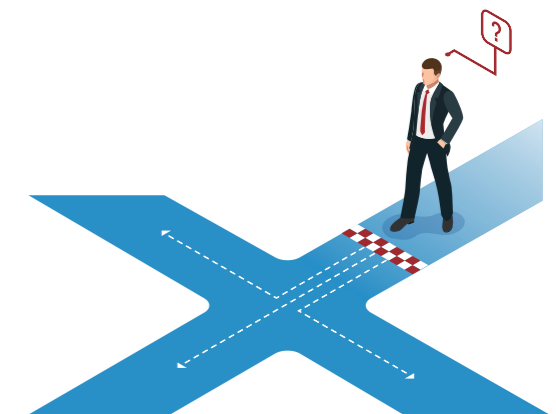
目的

- 心理的安全性なチーム、心理的安全性とは何かを理解する
- チームに対して、心理的安全性を高める行動ができるようになる

カリキュラム

- 心理的安全性とは
- 心理的安全性の作り方

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



幸福学

一般的な「幸福学」や「Well-being」について

講座概要

本講座では「幸福学」や「Well-being」について、当該分野の第一人者である慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長の前野隆司教授によって「幸福学」について学びます。

目的

APCの企業戦略として謳っている「幸せなSIを増やす」の「幸せ」や「幸福」について、一般的な「幸福学」や「Well-being」を通して理解する。

カリキュラム

- 幸福学とは
- 幸福の4つの因子とは

※慶應義塾大学ウェルビーイングリサーチセンター長の前野教授にご講演頂きました
※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



7つの習慣® ハイブリッド・プロセス・ラーニング

7つの習慣®をオンラインで実践的に学びます

講座概要

「7つの習慣」は世界的に普及している、ビジネスパーソンとしての原理原則を習慣化する考え方です。本研修では、ハイブリッド・プロセス・ラーニングという仕組みを使ってWebベースで習得します。“Proactive Mind”（主体的なマインド）と、“Professional Act”（プロフェッショナルな行動）を目指すプロセスラーニングです。

目的

- ビジネスの多様な課題に対応できる普遍的な原理原則を学ぶ
- 組織のそれぞれの階層や立場にふさわしい「気づき」を促す
- 「実践的なアプローチ」を得て、業務で実践し振り返ることを継続的に繰り返して習慣化する

カリキュラム

- 1 オンラインコンテンツ
ストーリーとフレームワーク、映像教材、コメント投稿、今週のチャレンジ
- 2 ウェビナー
参加型の進行、一体感醸成、映像コンテンツ
- 3 ワークシート
ワークシートフィードバック

※本講座はフランクリン・コヴィー・ジャパン株式会社のコンテンツを使用しています
※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



キャリアデザイン研修

自身のキャリアイメージを言語化する

講座概要

自分自身のキャリアを考える為の基本的な知識と、「興味」「能力」「価値観」を意識したキャリアシート記入のワークを実施します。キャリア開発における基礎知識を身につけると共に、APCが考えるキャリアについて学習し、今までの業務を振り返りながら自己分析を行い、中長期的なキャリアのイメージが描けるようになります。

目的

- キャリア開発の考え方を理解する
- 自己理解を深める
- ストレングスファインダーによる自身の特性を知る
- 自分の将来のキャリアを考える
- キャリアパスシートを描けるようになる

カリキュラム

- キャリア論の歴史
- 新しいキャリアについての考え方
- 自分の特性を知る(ストレングスファインダー)
- ライフラインチャートを作成する
- キャリアパスシート・キャリアシートを作成する

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



ビジネススキル

研修一覧

01 ロジカルシンキング

02 問題解決

03 クリティカルシンキング

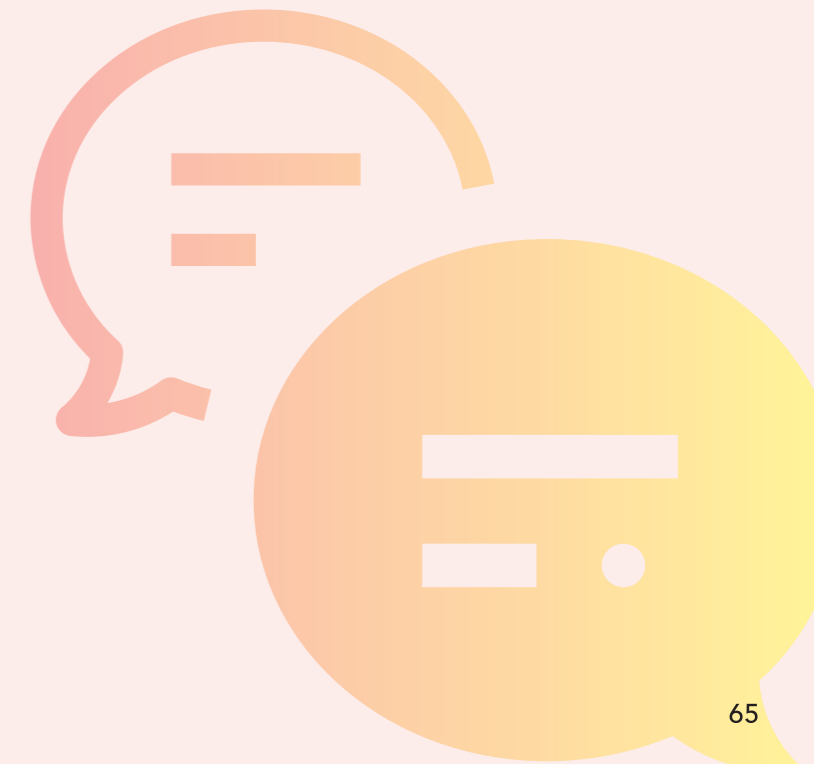
04 合意形成話法

05 ファシリテーション

06 H.O.L.C.

05 戦略的交渉力

06 戦略的対話力



ロジカルシンキング

これからリーダーや管理職になっていく方々は、自分が仕事を確実に進めていくだけでなく、メンバーに対して的確な指示が出せることも必要となってきます。そのためには「ロジカルシンキング」をしっかりと身に付けておく必要があります。

講座概要

ビジネスコミュニケーションの基礎言語となる「ロジカルシンキング」を習得します。頭の中で論理的に整理し、「伝える力」を養います。情報の整理と主張構築方法を学び、相手にわかりやすく伝えるスキルを身に付けます。

目的

- 体験を元に筋道立った解決策を立案し、相手の理解に合わせた説明ができるようになる
- 演習や、「ありがちなミス」の例示により、実際の職場での使い方をイメージできるようになる

カリキュラム

事前学習(eラーニング)

Day1 : はじめに、eラーニングの復習、情報整理ケーススタディ、議事録ケーススタディ

中間課題(eラーニング)

Day2 : Day1と中間eラーニングの復習、承認依頼ケーススタディ、総合演習ケーススタディ、おわりに

※本講座の受講は昇格要件となっておりますので、詳細は社内ポータルサイトをご確認ください
※本講座は「問題解決」と組み合わせて「ロジカルシンキング研修」として実施します
※本講座は株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズのコンテンツを使用しています
※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



問題解決

ビジネスにおいて、筋道立てて正しく考えるための「問題解決」スキルの体系を、ケーススタディを通じて学び、自社の問題解決に当てはめて身に付ける講座です。

講座概要

問題解決の考え方をインプットした後に、実際に自業務で抱える問題について、個人検討とグループ検討で学びます。自分の業務に当てはめて問題解決をする場合、必要な情報を収集するところから自力で始めなければなりません。本講座ではロジカルシンキングで学んだ考え方をを使って、自分の業務で起こっている課題をテーマに検討を行います。

目的

- 問題解決スキルの重要性と効果を実感し、日常業務に取り組む価値を理解できるようになる
- 自分の業務の課題への活用を経験することで、今後の職場での活用イメージも持てるようになる

カリキュラム

事前学習(eラーニング)

Day1 : はじめに、eラーニングの復習、自業務課題について検討(What)、事前課題の振り返り

中間課題(自業務課題の個人再検討)

Day2 : 自業務課題について検討(Where/Why)、事前課題の振り返り

中間課題(自業務課題の個人再検討)

Day3 : 自業務課題について検討(Why/How)、事前課題の振り返り、おわりに

※本講座の受講は昇格要件となっておりますので、詳細は社内ポータルサイトをご確認ください
※本講座は「ロジカルシンキング」と組み合わせて「ロジカルシンキング研修」として実施します
※本講座は株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズのコンテンツを使用しています
※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



クリティカルシンキング

ロジカルシンキングおよび問題解決を踏まえ、批判的に見直すクリティカルシンキングの「マインド」を学びます。

講座概要

自身の思考の癖を把握したうえで、自分が作成した提案などの成果物について思考を深め、検討の正しさや納得感を強化する訓練を行います。

目的

- 思い込まないことを学ぶ(思考に注意)
- 自分本位で考えないことを学ぶ(見方に注意)
- 情性に流されないことを学ぶ(習慣に注意)

カリキュラム

事前学習(eラーニング、自業務資料準備)

Day1 :はじめに、eラーニングの復習、自業務資料をクリティカルシンキングを使って振り返り、おわりに

※本講座の受講は昇格要件となっておりますので、詳細は社内ポータルサイトをご確認ください
 ※本講座は株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズのコンテンツを使用しています
 ※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



合意形成話法

相手の問題解決を行う中で、うまく合意に導くための思考法や具体的な話法について学び、ケースを使って実践します。

講座概要

対話を通じて相手の問題意識を引き出すことで合意形成に至るテクニックを習得します。本講座では、問題解決の流れに沿って、相手の状況をうまくヒアリングすることで、相手の問題意識を強め、自然とこちらの提案する対策を受け入れてくれるように持っていくための手法を学びます。さらに、リアルなシーンを想定したケース演習とロールプレイに取り組むことで、実務で使用するイメージを掴むことができます。

目的

- 合意形成話法を学習し実践できるようになる

カリキュラム

事前学習(eラーニング、自業務資料準備)

Day1 :はじめに、eラーニングの復習、問題解決話法実践演習、おわりに

※本講座は「ファシリテーション」と組み合わせて「ファシリテーション研修」として実施します
 ※本講座は株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズのコンテンツを使用しています
 ※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



ファシリテーション

オンラインならではの会議を効率よく運用するためのテクニックを学びます。

| 講 | 座 | 概 | 要 |

成果の出る会議を設計、効率よく運営するためのスキルを学習し、オンラインならではのテクニックを学び、実際に会議を進めてる体験を通じて習得します。

目的

- 会議の運営方法を学び、実際の会議で実践できるようになる

カリキュラム

事前学習 (eラーニング、自業務資料準備)

Day1 : はじめに、eラーニングの復習、オンラインにおけるファシリテーション、ファシリテーション実践演習、おわりに

※本講座は「合意形成話法」と組み合わせて「ファシリテーション研修」として実施します
 ※本講座は株式会社プレゼナ・ストラテジック・パートナーズのコンテンツを使用しています
 ※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



H.O.L.C. ※H.O.L.C.とはHigh Output Language Course (H.O.L.C.)の略です。

This company's goal is to expand Globally. To meet these two needs you need to not only learn English, but the type of English you will need in your work environment!

| 講 | 座 | 概 | 要 |

To be an effective engineer, you must be up-to-date on the latest products and services that are updated frequently and it is all done in English. At the same time, it is this company's goal to expand Globally. To meet these two needs you need to not only learn English, but the type of English you will need in your work environment!

Don't just aim to make yourself an Engineer, but a Global Engineer!

目的

This course is not just to improve your English skills.
 It is to improve your technical skills at the same time as your English skills.
 Aim for a technical certification in English to increase both your work portfolio and communication skills. In this global industry, it is a must to have not only the necessary technical skills, but also be able to communicate them clearly.

カリキュラム

■ Classes:

- ・Interview Class : Practice real world style interviews and self introductions.
- ・Presentation Class : Present about the services or products you are aiming to study.
- ・Open Conversation Class : Free talks to improve your basic conversation and grammar skills.

■ Events:

- ・Monthly Lightning Talks : Improve your English presentation skills.
- ・Monthly Facilitation Training : Improve your debate skills.

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



戦略的交渉力

グローバルに通用する交渉力を身につけます

講座概要

交渉を「合意形成、相互の関係性強化・発展のための、思考プロセスとコミュニケーション」ととらえ、新しい価値の創造と相互発展を目指します。戦略的交渉において必要なことは巧みな話術での駆け引きではなく、自身の思考の癖を把握した上で相手と対話し、他者視点を持って相手が納得できる交渉のストーリーを作ることです。本プログラムでは、体系立った交渉理論と心理の講義、模擬交渉での実践、フィードバックを毎回繰り返すことで、勝ち負けや駆け引きに陥らず相互発展を実現する交渉力を身につけます。

目的

- 社内外の関係者（顧客、取引先、他部門）との交渉スキルを高める
- 世界に通用する交渉力を身につける

カリキュラム

- 交渉力を鍛えるクリティカルシンキング
- クリエイティブ・ネゴシエーション
- 交渉戦略論
- 心理バイアスと交渉戦術
- 交渉の効果的なマネジメント
- コンフリクト・マネジメントの基礎理論

※本講座は慶應MCCのコンテンツを使用しています。
※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



戦略的対話力

意思決定の質を高める議論を実践します

講座概要

組織において質の高い意思決定をするために重要なことは、お互いが主張し合うことでも意思決定権者を立てることでもなく、立場や利害の対立を前提として話し合うこと、つまり対話による建設的な議論です。本プログラムでは社会心理学・行動経済学・組織論を踏まえた体系的な方法論を学び、対話のアクティブラーニングを通して自身の思考の癖を掴むことで、組織での良質な意思決定方法を習得します。

目的

- リーダーシップを発揮する上で、組織内の理解と協力を獲得する方法論を学ぶ
- 組織内のコミュニケーションの改善を図る

カリキュラム

- 対話の意義
- 対話の方法論
- 解決策の創造
- 対話型リーダーシップ

※本講座は慶應MCCのコンテンツを使用しています。
※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



企業理念とルールの理解

研修一覧

- 01 エーピーコミュニケーションズの歴史
- 02 被評価者研修
- 03 人事制度解説
- 04 月イチコンプライアンステスト
- 05 メンタルヘルスケア研修
- 06 ハラスメント研修
- 07 投資教育研修
- 08 セキュリティ研修



エーピーコミュニケーションズの歴史

1995年の創業から現在にいたるまでのエーピーコミュニケーションズの歴史を理解する

講座概要

変化が起きる時には必ず「流れ」があり、その流れの中から新しい事象が生まれます。

1995年の創業から現在にいたるまで、弊社でも様々なチャンス、様々なピンチがあり、これまでに多くの取組み・施策が生まれてきました。

弊社の歴史を知ること、企業理念やビジョン、各種施策や日々社内で飛び交う重要な用語まで、背景と目的をおさえて本質的な意味を学びます。

目的

エーピーコミュニケーションズの歴史を通じて、弊社の根底にある企業理念、内田社長のビジョンをベースに、その時々で開始された取組みや施策を学び、それらの施策が実施されるようになった経緯を知ること、その施策の目的と重要性を深く理解していただきます。

また、企業理念、各種施策を理解することで、これから弊社社員として自身がなにを考え、何を実行していくかを考えていただきます。

カリキュラム

- エーピーコミュニケーションズが指すもの
- エーピーコミュニケーションズの歴史

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



被評価者研修

目標管理に紐づいた人事評価の仕組みを正しく理解する

講座概要

会社員として働く以上、評価はつきものです。
しかし、その評価について「納得している」と答えられるビジネスパーソンは、そう多くないのも事実です。
では、どうすれば納得のいく評価を得られるのか？
目標管理に紐づいた人事評価の仕組みを正しく理解し、今後どのように振る舞えば、自身が活躍でき、かつ、評価者・被評価者の双方の納得度が高まるのかについて、必要な心構えと知識を学びます。

目的

- 人事評価・目標管理の全体像を理解する
- 評価にはパワーがあることを認識する
- 評価のパワーを活かす・上司との協働の必要性を理解する
- 目標連鎖の重要性を理解する

カリキュラム

- 人事評価の理解
- 目標管理の理解

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



人事制度解説

エーピーコミュニケーションズの人事制度と求める人材像を理解する

講座概要

エーピーコミュニケーションズの人事制度と求める人材像を理解し、人事評価とは評価結果を決定することのみを目的とするわけではなく、社員の能力開発、モチベーション向上を図ることで、個人の成長と組織としての業績を向上させる重要な役割を担っていることを学びます。また、評価は上司からの一方的なものではなく、上司と共に行う協働である事を学びます。

目的

- エーピーコミュニケーションズの人事制度を学ぶ
- 求める人材像を理解する
- 人事制度の変遷を学ぶ

カリキュラム

- 求める人材像
- 人事制度のフレームワーク
- 給与の構成
- 職種区分
- 給与の決定方法
- 人事関連イベント年間スケジュール
- 人事制度の変遷

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



月イチコンプライアンステスト

組織人としての日頃から意識すべき行動規範や知識を高める

講座概要

月イチでのコンプライアンステスト実施を通じてセキュリティへの意識向上の徹底に加え、組織人としての日頃から意識すべき行動規範や知識を高めていきます。

目的

- セキュリティ・コンプライアンス・QMS等に対する正しい理解と意識向上
- 組織人としての行動規範の習得

カリキュラム

過去に実施してきたテーマは以下の通りとなります

- 時間外労働管理
- QMS/ISMS
- 企業理念
- 情報資産の取り扱い方法
- ハラスメント
- ダイバーシティ
- プライバシーマーク、労働安全衛生教育、メンタルヘルス、反社会勢力について、SNSポリシー、年末年始の基本行動の注意喚起 など

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



メンタルヘルスケア研修

組織人としての日頃から意識すべき行動規範や知識を高める

講座概要

厚生労働省「こころの耳」で提供されているテキスト及び動画視聴を通して、メンタルヘルスケアに関する理解を深めてもらいます。

※こころの耳とは、こころの不調や不安に悩む働く方や、手助けをされるご家族の方、職場のメンタルヘルス対策に取り組む事業者の方などの支援や、役立つ情報の提供を目的に作られた、働く人のメンタルヘルス・ポータルサイトのことです。

目的

- メンタルヘルスケアの必要性を現場参入前(早期)に理解する
- ストレスとは何か、それによって引き起こされることは何かを理解する
- ストレスをためないようにするためのリラクゼーションについて何があるかを理解する
- ひとりで悩まないで、「こころの耳」(厚生労働省提供)という相談窓口があることを理解する
- カウンセリング窓口(外部契約会社)を知る

カリキュラム

- 【動画視聴】早く気づけるストレスケア
- 【動画視聴】メンタルヘルスケアの必要性とその役割
- 【資料読破】セルフケアについて
- 【資料読破】カウンセリング活用のススメ
- 【資料読破】カウンセリング窓口のご案内

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



ハラスメント研修

ハラスメントに対する理解・知識を高める

講座概要

昨今の社会問題であったハラスメントですが、2019年の第198回通常国会において「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律等の一部を改正する法律」が成立し、これにより「労働施策の総合的な推進並びに労働者の雇用の安定及び職業生活の充実等に関する法律」（「労働施策総合推進法」）が改正され、職場におけるパワーハラスメント防止対策が事業主に義務付けられました。

本講座では広くハラスメントの理解を得ることを目的として、知識を深めます。

目的

- ハラスメントに対する理解・知識を高める
- 気になることがあれば迅速に相談できるようになる

カリキュラム

- ハラスメントの理解
- パワーハラスメントの定義
- パワーハラスメントの6分類
- 職場のセクシャルハラスメント
- 職場の妊娠・出産・育児休業等ハラスメント

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



投資教育研修

企業型確定拠出年金について理解を深める

講座概要

エーピーコミュニケーションでは企業型確定拠出年金制度を導入しています。

確定拠出年金は、会社拠出金と、ご自身の給与から拠出する社員選択掛金を投資により資産運用していくため、資産運用の基礎知識を学んでいただけます。

※企業型確定拠出年金制度とは企業が掛金を毎月積み立て（拠出）し、従業員（加入者）が自ら年金資産の運用を行う制度のことです。

目的

- 資産運用の基礎知識を高める
- 資産運用に関する正しいリスクを理解する
- 確定拠出年金制度の資産運用をできるようにする

カリキュラム

- 企業型確定拠出年金制度
- 資産運用の基礎知識

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



セキュリティ研修

セキュリティに関する理解・意識を高める

| 講 | 座 | 概 | 要 |

個人情報の取り扱い、情報セキュリティについては、日々高度化の一途を辿っており、品質マネジメントについても、SDGsやサステナビリティといった言葉は異なれど、共通知識として社会的に求められており、昨今ではどれも欠かすことの出来ないものとなっています。事業への貢献、社会への貢献の一助となるようこれらを正しく理解していただきます。

目的

- 情報資産や個人情報の取り扱いについて学び、情報漏洩を起こさない意識、予防策を日常の中に問い入れ行動できるようになる
- インシデントを起こしてしまった場合の対応を理解し、速やかに行動できるようにする
- ケーススタディでインシデントを自分事として考え、学びを得る

カリキュラム

■ セキュリティ全般

- ・情報を守ることの意味
- ・セキュリティ事故・事件状況
- ・情報漏洩原因
- ・オフィスでの基本ルール
- ・お客様情報の取り扱いルール
- ・インシデント発生時の対応
- ・再発防止策の立て方

■ 各種認証について

- ・ISMSについて
- ・QMSについて
- ・Pマーク(PMS)について

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



リーダーシップ

研修一覧

01 リーダーシップ

リーダーシップ

リーダーシップスタイルとその使い分けを学びます。

講座概要

自身の普段発揮しているリーダーシップスタイルを把握したうえで、研修ではケーススタディを使って、状況に応じたリーダーシップの使い分け方を体感します。

目的

- リーダーシップの取り方には複数のスタイルがあることを学ぶ
- 現在どのような状況にあるかによって、
周囲を巻き込むリーダーシップスタイルが変わってくることを学ぶ

カリキュラム

事前学習(eラーニング)

Day1 : はじめに、eラーニングの復習、リーダーシップ総合演習、自業務でリーダーシップを考える、おわりに

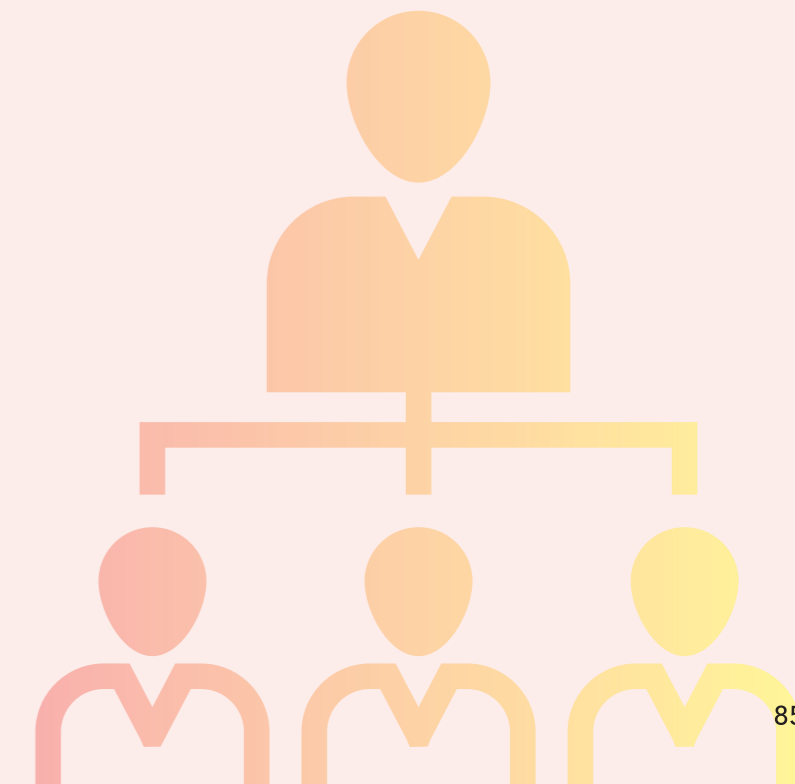
※本講座の受講は昇格要件となっていますので、詳細は社内ポータルサイトをご確認ください
※本講座は株式会社プレセナ・ストラテジック・パートナーズのコンテンツを使用しています
※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



新任管理職研修

研修一覧

- 01 新任管理職研修
- 02 気づき研修



新任管理職研修

管理職に必要な知識を身につける研修

講座概要

新たに管理職に任命された方を対象に、自らの役割、職責、守るべきルール等について学びます。そのなかで特に管理職として必要となる、部下育成の役割、労務管理や人事考課、業務の進め方について詳しく事例やワークを交えて学びます。

※参加人数に応じて、オンラインならびにビデオ視聴等、講義内容を組み替える場合があります。

目的

- 管理職として会社のルール、役割、職責を知る
- 部下の評価・指導ができるようになる
- 法令を理解して、適切な取引・労務管理を行えるようになる

カリキュラム

- 新任管理職への期待、事業戦略の理解
- 労務管理の重要性の理解、事例学習(労働法・派遣法等)
- メンバーケア(メンタルヘルス、介護休業、育児休業、ハラスメント)
- 評価者向け人事制度説明
- 目標設定の重要性の理解、ロールプレイング
- 業務効率化・リーダーシップ(タイムマネジメント、アダプティブリーダーシップ)

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



気づき研修

自分の知らない窓を開く

講座概要

オンラインでの働き方が進む中で、これまで以上に上司と部下の関係性が重要になってきている。一方で、組織における自身の位置づけや課題への気づきが得られる機会(期待とのズレに気がつく良いフィードバック)が減ってきている。このような新たな働き方のなかでの気づきの機会を作るべく本研修を実施します。

目的

- 日頃の行動特性を360度フィードバックにより「気づき」行動を改めることで、自身の成長と周囲との信頼関係を構築する

カリキュラム

- 本研修の目的・ゴール
- 360度FBについての研究
- フィードバックシートの重要なポイント・見方
- 個人ワーク
- 次回に向けた課題説明
- ペアワーク

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



マネジメント

研修一覧

- 01 1on1・信頼関係構築
- 02 Management 3.0
- 03 リーン・チェンジマネジメント

1on1・信頼関係構築

信頼関係は“こうすれば築ける”という正解はありません。相手によって対応も異なります

講座概要

本研修を通じて、メンバーとの信頼関係構築のためにアプローチを変えながら色々試していくための引き出しを増やします。

目的

- メンバーに対する気持ちと振り返りの時に考えてほしい”原則”と何度も継続してチャレンジする必要があることを学ぶ
- 他者の経験を通じて自分の1on1をより良いものにする

カリキュラム

Day1 : 効果的な1on1を実施するために

- 1on1について
- コーチングについて
- 信頼とは
- 信頼関係に必要な原則
- 1on1を実施するための準備

Day2 : 1on1 GUNSHI

- 実際に試してみて、うまくいったこと、うまくいかなかったことを共有して振り返る

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



Management 3.0

Management 3.0とは従業員を幸せにするためにオランダ出身のヨーガン アペロ (Jurgen Appelo) の世界80ヶ国で展開している新しいイノベーションとリーダーシップそしてマネジメント運動です。

講座概要

本研修では、リーダーシップの定義をあらため、マネジメントをグループの責任とすることで、自己組織化により高い内発的動機付けが可能になり、従業員の満足度が向上することを学びます。

目的

- ワークショップ経験を通して具体的な活動を体験し学ぶ
- オフィスで試してみることで人の相互作用のコミットメントを上げる

カリキュラム

- マネジメントとリーダーシップ
- 複雑性の考え方
- 人の相互作用のコミット
- チーム・エンパワーメント
- 価値観と文化
- 能力開発 (コンピテンシー)
- 会社組織のスケールアップ
- 成功と失敗によって改善すること

※本講座はNuWorks合同会社のコンテンツを使用しています
※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



リーン・チェンジマネジメント

リーン・チェンジマネジメントは、リーン・スタートアップ、アジャイル、組織開発、およびチェンジマネジメントのアイデアを取り入れた最新の変化・変革へのフィードバックドリブン型のアプローチです。

講座概要

リーン・チェンジマネジメントはジェーソン・リトル (Jason Little) によって考案され、著書では、成功した変化 (変革) を実装し、チーム、組織のメンバーとともに計画を練り、実行していくことで変化 (変革) への抵抗を回避するということが述べられています。リーン・チェンジマネジメントは、この最初の著書に基づいて構成されています。

目的

- なぜ新しいチェンジマネジメントの方法が必要なのかを学ぶ
- リーン・チェンジマネジメントのサイクルについて学ぶ
- 従来の伝統的な線形の変革と現代のフィードバック・ドリブンによるチェンジマネジメントとの違いを理解する
- 変化のための考えを分類するためにオプションの図や表を導入して学習する

カリキュラム

- チェンジエージェント (変化の主導者・先導者・エバンジェリスト)
- 変化のエコシステム
- アライメント (足並みを揃える)
- 実験する
- 人 (変化を取り巻く人のタイプ・どのように協働するか)

※本講座はNuWorks合同会社のコンテンツを使用しています
※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



採用

研修一覧

01 社員紹介制度



社員紹介制度説明

社員紹介制度を理解する

講座概要

「社員紹介制度ってどんな制度だっけ?」「どんな人を紹介すればいい?」「どうやって声をかけたらいい?」
本講座では社員紹介制度を活用した採用活動のコツを紹介させていただきます。

目的

- 採用マーケットへの理解を深める
- 社員紹介推進に必要なスキルについて理解する
- 社員紹介制度を把握し、友人・知人を紹介していただくきっかけとする

カリキュラム

- 採用市場の動向
- 社員紹介制度のメリット
- 社員紹介制度の概要
- 紹介の流れ

※カリキュラムは変更になる場合がございますので予めご了承ください



新入社員研修

研修一覧

- 01 社長対話会
- 02 副社長対話会
- 03 企業戦略対話会
- 04 エンジニアリングメンター室のご紹介
- 05 新卒社員向けビジネススキル研修
- 06 新卒社員向けチームビルディング研修
- 07 新卒社員向けパワーポイント作成研修
- 08 新卒社員向け他者理解研修(他己紹介)
- 09 新卒社員向けキャリアデザイン研修
- 10 新卒社員向けプレゼンテーション発表(1年後のなりたい姿)
- 11 新卒社員向け入社1年目フォローアップ研修
- 12 新卒社員向け技術研修

入社時に心強かった社内大学で、半年後には講師に。目標としたくなる人たちとの出会いと刺激的な日々。



A PCが研修制度の一環として行っている社内大学「APアカデミー」。社内で企画・開発・運用を行ない、およそ100種にも及ぶ講座を展開しています。大きな特徴は、その講師を手掛けているのが現場で活躍するエンジニアたちであるということ。現場で感じた気づきや学びをすぐに講座として取り入れていくことができる。そんなスピード感もAPアカデミーならではです。中途入社時には、開発スキルがまだまだだと思っていた岩崎。APアカデミーで学んだことで業務で成果を出せるようになったのももちろん、今では講師としても活躍しています。どのようなきっかけでエンジニア兼講師というキャリアを築くことになったのでしょうか。また管理職としても奮闘している岩崎に、APCで働く手応えと面白さについて聞きました。

Profile クラウド事業部 マネージャー **岩崎 和幸** Kazuyuki Iwasaki

専門学校を卒業後、自動車整備士としてチューニングショップに就職。1年後、データセンターの運用オペレーターに転身。約12年間の勤務を通じて金融系システムの開発にも携わったことから、開発スキルに特化したいと考えてAPCへ入社。現在、メンバーのマネジメントを手がけつつ、AWSを用いた開発業務に従事。また、APアカデミーの講師として「コンテナ技術アカデミー#1 Docker/ハンズオン講座」を担当。さらに、毎月発行される事業部の活動報告「CL Div.Press」の編集長としても活躍している。趣味はDIY、キャンプ、ドローン撮影、スノーボード。ポリシーは「作れるものなら作る」「人がやらないことをやる」「受け手の気持ちを忘れない」。現在38歳。

ものづくりへの興味から、システム開発へ

小さなころから、パソコンに触れていたとお聞きしました。父が鉄工所を営んでいて、その影響もあってか3歳のころには溶接をしていたくらい、機械がオモチャみたいなものだったんですね。なかでも工場にあるロボットを設定するために置いてあったパソコンに触らせてもらったことが、興味を持つきっかけになりました。

ものづくりへの興味から、最初は自動車整備士を志したとお聞きしました。

そうですね。高校時代にバイクに目覚めたのをきっかけに、自動車整備専門学校に行きました。すると、周りにはバイクより車好きなメンバーが多かったんですね。連日車の話をしているうちに、興味が車に移って、そのまま自動車整備士を目指すことになりました。国家資格を取得後、約1年ほどチューニングショップで働いていたのですが、日常的に重いものを持つことがあったために腰を痛めてしまったんです。もう整備の仕事続けるのは難しいなと考えたときに、そういえば小さいころパソコンに触るのが楽しかったというのを思い出しました。そこで、とにかくパソコンを使える仕事、と入社したのがデータセンターでした。それから33歳までシステムの運用オペレーターとして働きました。基本的にはマニュアルに沿って対応をしていく仕事です。データセンターでは数年ごとに異動があって担当するお客様が変わるのですが、金融系システムを担当したときに開発業務を手がけるチャンスがありました。たった1秒で数千万円という損害を出す可能性のある環境だったので緊張感のある状況だったのですが、お客様から「ありがとう」という言葉をいただけるのが嬉しくて、気がつけば12年も経っていました。

勤続12年と長く務めたタイミングで、さらに転職をすることになったきっかけは？

そのころ結婚をすることになったからです。24時間365日休むことなく動くシステムを監視するために、前職では夜勤業務もありました。気づけば一緒に働いているメンバーも20代の若手ばかりで、体力勝負の業務なのは否めませんでした。加えて開発に対する好奇心がすごく強まっていたのもありました。やっぱり、ものづくりが好きな気持ちが根底にあったんでしょうね。しかし12年間システムに触れていたとはいえ、開発業務についてはまだまだ学んでいかなければならないレベルのスキル……。そんな自分でも大丈夫なところはどこだろうと探して、巡り会ったのがAPCでした。

「開発スキルはまだまだこれから」でも安心できた風土と教育制度

APCはどのようにして知りましたか？
転職サイトを経由して見つけました。3社候補にしていたのですが、決め手になったのは面接の雰囲気です。企業によって面接で全然違うんですね。人事部門の方が淡々と形式的に行う場合や、実際に現場の方が参加してフランクに話して下さる場合など。そのなかで、APCは人事の方との面接でありながらも、現場の感じがすごく伝わってきました。私が「開発スキルはまだまだこれからなんですけど……」と率直に不安に思っていることを話したときも、「チャレンジできる案件と一緒に探しますよ」と言ってくれたことがすごく印象に残っていますね。チャレンジをサポートしてくれる手段として、社内大学のAPアカデミーがあることも心強かったです。実践的な研修が受けられ、自分の市場価値を高めていくことで会社に貢献できる。そうして成長していく自分の姿が

見えたというのが、一番の決め手でした。

実際に入社していかがでしたか？

すごくオープンで親切な方がとても多いんですよ。メンバーだけでなく管理職の方も相談に乗ってくれたり、些細なことにも気づいて声をかけてくれます。何かあったときにはすぐに察して「ちょっと今日、業務の後に時間ある？話をしようか」みたいな感じで誘ってくれるんです。フットワークが軽いというのも、APCらしさかもしれません。リモートワークが基本のため、気持ちを1人でため込みやすくなりがちな環境ではありますが、会社に対しても信頼感を持てることはすごくありがたいと思います。私も今はマネジメント側なので、部下たちにもそういう閉塞感を感じさせないように試行錯誤しています。

入社時に不安に感じられていたスキルの面についてはいかがですか？

APアカデミーがあって本当に良かったなと思います。入社当初に学ぶことができたというのはもちろんですが、この業界は常に知識をアップデートしていく必要がありますから、最新情報をキャッチアップできる仕組みができてくれるのはありがたいですね。自ら「こういう講座はないですか？」とか「こういう話を聞きたいです」という声を出せば、すぐに反映されるというのも社内大学ならではの魅力だなと感じています。

貢献できていると感じられる場面が多い環境

現在は、講師も務めておられますね。
そうですね。現場にいると様々な場面で「APアカデミーでもっとこういうのをやらなきゃな」「ああいうのも紹介しないと」っていうのが次々と出てくるので、頭を悩ませてしまうこともありますが、その視点もAPCにいればこそ。講師として講座を受け持つ経験をしていなければ、新しい情報や技術に対してこれほど感度高く対応していなかったと思うので。それは全体的な雰囲気でも感じます。新しい技術をどんどんやってみようという空気が生まれやすいので、「うちはできません」「そういうのはないです」なんて終わることなく、お客様からも「継続して次の案件も」と言ってもらえることが多いと感じています。

講師になったきっかけについて教えてください。

入社して半年ほど経ったころに講師をやっている方から「やってみないか」とお誘いをいただいたのが始まりです。自分の知識も少し向上している手応えを感じていたときだったので、その学びや気づきをシェアしていくことができたらしいなと思い、トライしてみることにしました。当然ながら、最初から全員に理解してもらうのは難しく、スマートに進められたわけではありませんでした。受講者の表情を見てみると、どれだけの人が理解しているのかわかるんですね。講義の内容や説明の文章を見直して、「現場ではこういう形で使っています」と例を出してみたり、言葉選びを変えながら1人でリハーサルをしてみたりと、伝え方を工夫してきました。そのおかげで、今では「こう話したらどんなふうに伝わるかな」という思考回路がだいぶ鍛えられたように感じますね。講義はオンラインという特色を活用し、いつでも個人が学びたいときにアクセスできるように講義動画もAPアカデミーのサイトに保存されています。その動画を見た受講者や講師陣から感想やアドバイスなどのリアクションが寄せられるので、その声をもとに更に改良したり、次の講座を作るネタとしてストックしたり、と学びの多い日々を過ごしています。

さらに、毎月全社向けに事業部のトピックなどを発信している「CL Div.Press」の編集長も手掛けられているそうですね？

はい、月末に事業部の売上や活動報告、APアカデミーの講座や社内外のイベント風景などを取材して掲載しているものです。また、固い話ばかりでなく、管理職メンバーの自己紹介として性格診断テストの結果を共有したり、事業部メンバーの「自分が買ってよかったもの」を紹介してもらったりと、仕事の情報に読み物としての面白さを兼ね備えたものを目指しています。自分が所属している事業部、会社がどんなところかよくわからないまま仕事をするのって、結構消化不良を起こすところだと思う



んですよ。そこを自分が埋められればと思って毎月「CL Div.Press」を作っています。

現役エンジニア、管理職、講師、編集長……と、何足ものわらじを履くのは大変ではないですか？

正直、目が回りそうになるときもあります(笑)。とはいえ、あれもやりたい、これもやりたいと常にワクワクしています。APアカデミーで学んでスキルアップすることももちろんですが、現場で「こういう講義が必要だ」という声を出してみたり、実際に講師として登壇してみたり。いろんなことにトライするだけ、お客様にも、仲間にも感謝されて、いいことばかりなんですよ。そのためなら何でも頑張ることができます。そういう意味ではAPCって自分が周囲に対して貢献できていると感じられる場面がとても多い。それが、APCの魅力じゃないでしょうか。

APCに入って嬉しかったのは、目標としたい人にたくさん出会えたこと

ももとは結婚を機に生活を安定させるための転職とのことでしたが、今の働き方としてはいかがですか？

まずは、基本的にリモートワークというのがありがたいですね。時間の管理がしやすくなって、気持ちとしてはリラックスして仕事ができていると感じています。今年の5月で子どもが1歳になったばかりなので、そのかわい姿を見られるのも嬉しいです。最近はとてもアクティブに動くようになってきて大変だなと思いながらも、毎日成長しているのを実感しています。それに休日は社内の部活(キャンプ部)にも参加しているんですよ。今は秋から春にかけて月に1回、家族と一緒にキャンプに行っています。

生活も安定し、やりたいことが続々と見つかっている環境で次に見据えている目標はありますか？

新しい技術を常にキャッチアップしていくエンジニアでありたいというのは大前提として掲げています。常に進化していく世界なので追いつけ続けるのはとても大変ですが、それだけ学ぶべきことが更新され続けるということでもあるので、やりがいをずっと感じられるんじゃないかと。また、講座のなかにも技術について深掘りして調べていくようなものもあるので、そういった意味では知識欲がすごく満たされる環境でもあると感じています。

最後に、どんな方にAPCに入社してほしいですか？

やはりチャレンジすることが好きな人ではないでしょうか。そして、自分の将来像を思い描いてそこにつながることにトライし続けられる人ですね。将来像といっても半年後、1年後みたいな短いスパンで考えていくことが大切かなと思います。個人的にAPCに入社して本当に良かったなと思っているのは、身近に目標としたい人がたくさんいることなんです。常に努力を続けていて「あ、それできますよ」とサラッと言う人が驚くほど多くて。年齢や性別を問わずに、思わず「カッコいいなー」って尊敬してしまいます。同時に自分も負けてられないなって刺激を受けます。APCは、そのやりたい思いを尊重して活躍できる場を提供してくれますので、これまでのキャリアや経験を活かして、さらなるステージを登っていきたいという方にぜひ飛び込んでもらいたいなと思います。

20代で社内大学の講師を経験。 学びながら教えることで、 エンジニアとして成長できる 好循環を手に入れた。



A PCの教育制度には、自社で企画・運営を行なう社内大学「APアカデミー」があります。キャリアやスキルに応じて選べる研修・講座の数はおよそ100種類。その講座を受け持つ講師のほとんどはAPCで活躍する現役エンジニアたちです。「講師を経験することで、インプットする力も、アウトプットする力も向上しました」と話すのは、入社2年目からエンジニアと並行して講師にもチャレンジしている小林です。早期に講師としてのキャリアを築くことができるのもまたAPアカデミーの特徴。「いつか父を超えたい」と目標を掲げてAPCへ中途入社をした小林。ここならばその夢も叶いそうだと声を弾ませます。APCでエンジニアとして、そして講師としての活動を通じて感じている、自身の成長について聞きました。

Profile ITOC事業部セクションリーダー **小林 瑞樹** Mizuki Kobayashi

大学では経営学を専攻。2018年4月、Sier企業に新卒入社し、大手通信キャリアで運用保守オペレーターを経験。その後社長秘書業務にも携わり、同年11月にAPCへ中途入社。エンジニアとして活躍しながら、APアカデミーの講師として「ネットワーク構築ベーシック(基礎編)」[VBA]講座を担当。趣味は、小学生から続けているテニスとゲーム(FPS)。APCに入社してからは、同僚のすすめでトレイルランニングも始めました。好きな言葉は「私は決して負けない。勝つか学ぶかだ」(ノーベル平和賞受賞者ネルソン・マンデラ氏の言葉)。

「いつか超えたい」と憧れた、 父の背中

大学では経営学を専攻されていたとのこと。どのような進路を希望されていたのでしょうか？

手袋の貿易会社を経営していた父の背中を見て育ち、仕事面でも尊敬する父を超えるような大人になりたいと思うようになりました。私が中学生のころ、マレーシアで単身赴任をしている父のところへ遊びに行ったとき、英語、中国語を使い分け、文化も全く違う場所で頑張っている父を見て「あ、すごいな」と憧れたんです。しかし、当たり前ですが、大学で経営を学んだからといってすぐに経営者になれるわけではありません。父のような立派な社会人になるにはどうやって経験を積もうかと考えたときに、世界規模で見ても成長市場にあるIT業界でチャレンジしようと就職活動をしました。

新卒入社したSier企業にて、大手通信キャリアでの業務をご経験されたそうですね。

はい。IT業界を志望したものの、どう会社を選べばいいのかわからなかったんで、自分なりに調べ、技術力向上について「熱心に取り組んでいる」と謳っている会社に入社を決めました。担当したのは、大手通信キャリアでの運用保守オペレーターです。お客様から電話をいただいて依頼内容に対してご案内する仕事で、どちらかというとマニュアルに沿ってタスクをさばっていくという感じです。しっかりと自分のシフト内で対応できたときには達成感がありました。ただ、マニュアル通りにご案内するという仕事ゆえに自分自身が成長していると実感できる感覚はなかなか得られなくて……。入社前に勉強をしてCCNAなどの資格を取っていたのに業務に活かしていない歯がゆさも感じました。父の働きぶりもそうだし

たが、何か1つでも突出した強みがあると、どこでもやっていける人材になれると思うんです。たとえ所属している会社を離れることになったとしても、別の会社や、自分自身で仕事を請けられる。そうなることが、本当の意味での安定につながると思っていたので、技術力を身につけられる環境に早く行きたいと考えるようになりました。

APCに入社する前に、数カ月間社長秘書も経験したとお聞きました。たまたま知り合いからの紹介で「やってみないか」とお声がけいただき、社会勉強のつもりで飛び込んでみました。実際にやってみて思ったんですが、自分の性格上、誰かのサポートよりも自分がメインになって動きたいという気持ちが強くて。改めてエンジニアとして技術を高めていこうという思いが湧き、転職活動に力を入れました。

APCの強みは、現場に即した講座を持つAPアカデミーと 社員の柔らかな雰囲気

APCに入社を決めた理由は、やはり教育制度でしたか？
そうですね。いろいろな会社を検討しましたが、圧倒的に充実していると感じました。「教育に力を入れている」と明言している会社でも、外部の研修サービスがメインの会社が多くて、最新技術や実践型研修をここまで内製化しているところは珍しいと思いました。アウトソーシングの研修だと幅広い知識は身につくのですが、独学で資格の勉強をしているのとあまり変わらないなと。その点、APアカデミーは現役のエンジニアである先輩社員が講師となって教えてくれる講座が多いので、本当に実践で使える技術ばかりだと思いました。それに講義が終わった後にも、わからないことがあればすぐに聞くことができますしね。講師の方との距離が近いというのも、APアカデミーならではの強みだと思います。

すぐに質問しやすい雰囲気があるんですね。
はい、そこがAPCに感じたもうひとつの魅力でもありました。面接の段階から、やわらかな雰囲気といったらいんでしょうか。グイグイと来ることはないのにしっかりとコミュニケーションが取れる程よい距離感がすごく好みだなと思いました。入社してから、そのとき感じた感覚は変わらないですね。私が講師にチャレンジできたのも、そうした柔らかな雰囲気だったところが大きかったかもしれません。入社してまだ2年目だったにも関わらず、講師をされている先輩から「小林さんどう？」とフランクに声をかけていただいて。まずはやってみよう、という気持ちにさせてくれる環境があったから、気負うことなくトライできたと思います。

人前で話すことはもともと得意だったのでしょうか？
いえ、どちらかといえば苦手なほうです。そんな自分でも「できるかも!？」と思わせてくれるのが、APC社員の皆さんの上手いところですよ(笑)。先輩たちも「できるよ」「大丈夫だよ」と言葉をかけてくれましたし、いざやるとなったときにも資料を共有してくださるなど、サポートもしっかりしていただけたので安心して取り組みました。

学びながら人に教えることで、 成長スピードの速さを実感

実際に、講師として活動されてみていかがですか？
APアカデミーって受ける側よりも、講師側の方にメリットがあるんじゃないか、なんて思うってしまうほど私にとってはすごく得るものが多かったです。以前は現場で必要な技術があったら、自分なりに勉強して「ああ、こういうことか」と理解して終わりでした。しかし、講師となるとそれを説明しなければならぬ。なんとなくわかったという状態では、人に教えることは無理なんですよ。それに受講者からの質問に答えることで、自分の中に知識がしっかり定着していく感覚もあります。もう一つのメリットは、ロジカルに話ができるようになったことです。人前に立つこと以前に、そもそも人に何かを伝えること自体の難しさを感じていました。入社したばかりのころは、業務の報告もままならないほどで(笑)。講師になってからは比較的ロジカルに説明ができるようになったと実感しています。そういった意味でもAPアカデミーの講師は、エンジニアとしてもすごく成長に繋がっているなと思います。

そうした講師の経験を早期から積めるというのも、APアカデミーの特徴ですね。

そうですね。今では私の方から「やってみたら?」と声をかけている後輩もいます。「講師」って言われると身構えてしまう人も少なくありませんが、正直講師に向き不向きはないと思うんです。実際に私も人前に立つことや話すことが苦手でも、こうしてできていますし。強いて言えば、人に興味があること。それさえあれば、年齢や社歴が若かったとしても、十分チャレンジできる環境です。私が背中を押してもらえたように、「やってみたいです」という人がいれば、今度は私が押す側になりたいと思っています。

現場でも業務に取り組みながら講師としても活躍されるのは、大変ではありませんか？

もちろん現場が忙しいときには現場優先で進めています。とはいえ、プロジェクトには繁忙期や閑散期がありますから先々を見通した形でスケジュールを組みます。なので、そのあたりは厳しい働き方にはなっていません。また、講師陣はチームで講義を運営しているので、1人で抱え込むようなこともなく、そこは本当に心強いです。いざとなったら配慮してもらえる環境があるのも、社内大学だからこそ融通が利くところかもしれませんね。

学ぶことに前向きな空気と、 新しい情報が自然と舞い込む風土

これまで講師をされてきて、印象深かった出来事はありますか？
最近「ネットワーク構築ベーシック」という、ネットワーク構築の基礎に関する講座を新規で作りました。既存の講座を引き継ぐのとは違って、講師メンバーを募り、どんな人に向けて講座を作るのかと考え、ただ座学で教

るのは面白くないからと使用するツールを決めて……。0から自分たちで企画していくのは非常にいい経験になりました。また、3ヶ月間かけて行なう研修なので、途中で受講者のモチベーションをどう維持していこうかという点も頭を悩ませましたが、やりきった達成感は大きかったですね。

新規講座は今後も作られていくのでしょうか？
そうだと思います。今回の講座も、もともとは僕が担当しているプロジェクトの中での勉強会用として作っていた資料が基になっています。上長に「これ、現場だけで使うのはもったいないね。もう少しブラッシュアップして全社で公開できるようにやっていこうか」と言われたところからスタートしたものでした。APCではプロジェクトチームごとにも勉強会が積極的に行なわれているんです。新しい方が入ってきたときに、座学だけではなくなかなかカバーしきれない部分を、実際に手を動かしてみ、より早く立ち上げられるように。それもAPC自体がエンジニア育成に力を入れているからこそ、現場でも「こういう勉強会をやろう」と学ぶことに前向きな社風が生まれているのだと思います。また、そうした雰囲気があるので、新しい情報がどんどん入ってくるのも嬉しいところです。例えば、副社長や取締役の方が、トピックをまとめたマンスリーレポートを出しているんですが、それを見るだけでもチェックすべき情報を得ることができるんですよ。全体的なものだけでなく、「各現場では今こんなことが熱いですよ」みたいな細かな情報もあって。リモートワークが主体なので社員同士が直接顔を合わせる機会は少ないですが、適度な帰属意識も感じられて楽しいです。

背中を押してくれる環境に、 ぜひ飛び込んでほしい!

プロジェクトそのものの魅力はいかがですか？
APアカデミーのことばかり話してしまいましたが、もちろんその部分が一番やりがいを感じています。実績がなくても難しい構築業務も任せてもらえますし、その中でも周りがしっかりサポートしてくれるので安心してチャレンジできるなと思っています。挑戦していけるからこそ、学ぶ意欲も出ますし、その得た知識を教えながら深めていける……。そうして成長しているなと日々感じています。

エンジニアとして成長していく好循環を回せるAPCなら、キャリア形成の核として掲げていた「父を超える」の目標は達成できそうですか？

そうですね。何をもって「超えた」とするかはありますが、「専門性を磨く」という点では父に勝てるようになったのではないかと。残念ながら父は他界してしまったのですが、きっと今も空の上から見守ってくれているんじゃないかなと思います。

最後に、APCはどんな方におすすめだと思いますか？

私自身がそうだったのもあるんですが、エンジニアとして価値を高めたけれど、具体的に何をやらしたいのかわからない方。逆に、やりたいことは具体的に持っているけれど実績がないから無理なんじゃないかと思っている方に、いい環境だと思います。やる気はあるけど漠然としている人には「じゃあ、こんなことをやってみれば」という提案がもらえますし、「こんなことをやりたいんですけど、実績ないです」という人には「やってみればいいじゃん」と背中を押してくれるので。私自身も最初はふわふわわわわわで、自分でも「できるのかな?」と思ってたんですが、実際に飛び込んでみたらできることはたくさんありましたし、大きな成長に繋がりました。ぜひとも、成長していきたいという意欲のある方に飛び込んでいただきたいと思います!



APアカデミー講師インタビュー

エンジニアとして、
マネージャーとして、
講師として。
“活躍の場”はまだまだ広がる。



A PCには「APアカデミー」と呼ばれる社内大学があります。これは、社員のキャリアアップを実現するための研修制度。最大の特徴はAPCの現役エンジニアが中心となって各講座の講師を務める点です。今回話を聞いたエンジニアの中原もマネージャーでありながら、同時に「APアカデミー」の講師としても活躍中。「後輩に技術を伝えていくのが自分の役割」と語る中原に講師を初めたきっかけや「APアカデミー」の価値、自身のキャリアについて話を聞きました。

Profile iTOC事業部 マネージャー 中原 進之介 Shinnosuke Nakahara

2000年、中堅Sierにエンジニアとして新卒入社。ネットワークエンジニア、プロジェクトマネージャー、カスタマーエンジニアとして幅広く経験を積む。2019年、APCに入社。ネットワークを専門分野としたエンジニアとして活躍。2021年からは社内大学「APアカデミー」の講師としても活動し、2023年1月iTOC事業部 マネージャーに就任。現在、43歳。

会社の成長には
「後輩への技術伝達」が必要

APCで手掛けてきた仕事について教えてください。

私は2019年にAPCにネットワークエンジニアとして入社しました。以前は、中堅Sierでネットワークエンジニアをはじめ、プロジェクトマネージャーやカスタマーエンジニアとして提案から設計、運用、保守までを担当していたのですが、APCでは“ネットワーク”という一つのセクションに注力。その分野のプロフェッショナルを目指して専門性を高めてきました。現在は、iTOC事業部でマネージャーをしながら、「APアカデミー」の講師としても活動しています。

「APアカデミー」の講師を担当するようになったきっかけは？

もともと自身の中に「後輩に対して、技術の伝達をしていきたい」という気持ちが強くあったんです。それは後輩のスキルアップのためでもあります。前提として会社の成長のため。自分が10年かけて学んできたものを、後輩が同じ時間をかけて学んでいては意味がない。そ



こに達するまでの時間を短くしなければ、会社の未来はないと考えていました。

「後輩育成」に価値を感じていらっしゃったんですね。

そうですね。そう思うようになった理由としては、前職での環境が大きかったと思います。前職の会社での採用は新卒採用がメインで、経験を持った中途入社はほとんどいなかった。ですから自然と「後輩に早く戦力になってほしい、そのためには何が必要なのか？自分は何ができるのか？」と考えるようになっていて、早いタイミングから育成に対しても積極的に取り組んでいました。何より自分自身も新卒で入社していて、先輩から本当に多くのことを教えていただいたんです。ネットワークの基礎、設計の仕方、お客様への提案方法…あらゆる場面で丁寧に面倒を見ていただいたあのときの恩をいつか返したいと思う気持ちがありました。

そうだったんですね。

APCに入社してからもこの気持ちはずっと持っていたので、上司にも1on1で話をしていた、その流れで「だったらAPアカデミーの講師がいいのでは？やりたいことができると思う」とアドバイスももらったんです。改めて「APアカデミー」の取り組みをみてみると、自分の理想に近い場所だと感じました。講座として、自分の知識や経験を多くの後輩に伝えられることに魅力を感じ、2021年頃から講師としての取り組みをスタートしたんです。

「伝える難しさ」の一方で、
「伝わった嬉しさ」があった

「APアカデミー」ではどのようなことをされているのでしょうか？

講座の企画・運用、そして講師までを担当しています。最初に作ったのは「ネットワークの詳細設計」という講座で、テーマに関しては上司から

「自分が伝えたいものを講座にしてみたら？」との言葉をもらって、自由にやらせてもらった感じですね。90分×3回の内容で半年ほどかけて準備をしました。

実際に講師をしてみて、どのような感想を持ちましたか？

それなりに長い時間かけて作成したものであったので形になった嬉しさはありつつも、伝える難しさを痛感しました。「ネットワークの詳細設計」の講座はエンジニア歴3年目～6年目ぐらいを対象にしていたのですが、参加者によって受け取り方が違って。提案から設計・構築・運用までやってきた人もいれば、保守しかやってませんという人もいて…バックグラウンドが異なるので、全員が理解できるレベルを探りながら翻訳して、分かりやすく伝えていく難しさがありました。

なるほど。

けれど、伝わったのかなと思える瞬間もありました。参加してくれた方たちのアウトプットがどんどん良くなっていったんですよ。提出してくれた課題に対して私から「こうしたらいいんじゃない？」とアドバイスをして、参加者はその改善案を参考にして次の課題に挑戦する…この繰り返しによって、現場でも通用するレベルのものが出来上がっていった感覚がありました。そこは本当に嬉しかったところです。

スキルアップが目に見えて分かったんですね。

それから、自分自身にとって良い復習の機会になりました。講座では体系立てて解説していく必要があるんで、言語化する過程において「これまで自分は曖昧な理解でいたんだな」「こういう意味もあったのか」など、新しい学びがありました。たとえば「ネットワークの基本設計」を依頼されたときに、だいたいのアウトプットが想像できているので自分では感覚で作ることができるけれど、後輩に依頼をして「何を作ればいいんですか？」と聞き返されたら、きっと明確に答えられずにいたと思うんです。けれど講師をしてきたことで「ここはこうなっているから、こういうものを作ってほしい」としっかり指示できる力になったと思います。

エンジニアのキャリア開発は、
会社全体の取り組み

「APアカデミー」の講座の価値はどのようなところだと思いますか？

一番は講師の生々しい体験から学べる点だと思います。「APアカデミー」は社内大学であり、そこで講師をしているのはAPCの現役のエンジニアですから、外部講座では得られない内容になっています。外部の講座だったら、“こういう思い込みで痛い目にあった”“大きな失敗をしそうになった”…というところまでは伝えられないと思います。一般論じゃない、もう一歩踏み込んだ話が聞けるのはとても価値ある場所だと思います。

確かに。自社向けに行っているからできることでもありますね。

それから、知識を学ぶだけでなく“実践を積む場”になっている点も「APアカデミー」の価値だと思います。APCのエンジニアが講師を務める講座の多くは実践にかなり近い内容になっているので、ここでの学びをそのまま現場で活かせると感じています。たとえば、「ネットワークの基本設計」の講座内には、「基本設計を途中まで作成しましたが、お客様からの要望に応えるべく新たにこの項目を追加することになりました。その場合の設計を考えてください」といった問題にもチャレンジしています。提出された課題に対しては、私の方で確認をして細かくフィードバックをしていくのですが、過去には「どう改善すればいいのか、丁寧にアドバイスをもらえて勉強になった」という声をもらったことがありました。

座学を受けて終わりにしない、と。

そうですね。アウトプットまでであることが大事なのだと思います。本番に近い実践的な経験を積んでおくことで、現場で同じような場面に遭遇した際にも、考える方向性が見つけやすくなるのではないのでしょうか。いくら「やってみたい」という意欲を持っていても、経験がないものに対し



て、いきなり現場で取り組むのはハードルが高すぎますが、「APアカデミー」の講座を上手く活用することで、実践に近い“最初の経験”ができるのだと考えています。

中原さんのキャリアに変化はありましたか？

「後輩に対して、技術の伝達をしていきたい」という想いから1講座の担当を始めましたが、最近では伝える範囲が広がってきました。先日は、社内のIT教育に課題を感じていらっしゃったお客様から、社員向け講義の依頼をいただき、ITやネットワーク、サーバの基礎についてお伝えしてきたところです。新しいチャレンジにつながっていると感じています。振り返ってみると、APCはエンジニアのスキルアップやキャリア開発に真剣に取り組んでいる会社だと思います。実際に私も自分がやってみたいことについて上司に相談し「APアカデミー」の講師を勧めてもらい、そして、社内だけではなく社外の講師としてもキャリアを広げることができました。会社全体が社員の“この先、どうなりたいか”を考えてくれている、そんな感覚を持っています。だからこそ、現状に満足するのではなく、これから先も新しいキャリアを描き、実現していきたいと思っていますね。

*掲載内容は2023年5月時点の情報です。

APアカデミー講師インタビュー

文系出身エンジニアが、社内外で活躍する「プロフェッショナル職」になるまで。



エンジニアとして技術力を最大限に発揮してもらいたい。そんな思いから生まれたのが、APC独自の技術専門職「プロフェッショナル職」です。現在、クラウド事業部に所属する長谷川も「プロフェッショナル職」として活躍するエンジニアの一人。しかしながら、長谷川は「私は完全な文系出身です。昔から歴史が大好きで、学生時代は考古学者になりたいと思っていました。」と語ります。長谷川に「プロフェッショナル職」を目指した理由や仕事内容、エンジニアとして大事にしていることについて聞きました。

Profile クラウド事業部 プロフェッショナル職エンジニア 兼 運用チーム リーダー 長谷川 脩 Osamu Hasegawa

2006年、Sier企業にエンジニアとして新卒入社。システム開発と保守を担当する。2015年、開発業務に注力すべくAPCに入社。開発エンジニアとして1年ほど経験を積んだ後、クラウド事業部に異動。2020年、プロフェッショナル職に就き、2021年からは「APアカデミー」の講師としても活躍。2022年より運用チームリーダーを兼任。好きなものはスイーツ。

技術に向き合い続ける、プロフェッショナル職

現在の長谷川さんの仕事内容を教えてください。

現在は、「プロフェッショナル職」のエンジニアとして活動する一方で、クラウド事業部で運用チームのリーダーとして組織マネジメントにも関わっています。「プロフェッショナル職」として、私がテーマとして扱っているのは「ログ」に関する領域です。ログ収集・可視化の必要性や有効性、ログ分析基盤の一つ「Elasticsearch」の運用と活用方法に関する知識を深め、社内外へ発信しています。

「プロフェッショナル職」についてもう少し詳しく教えてください。

APC独自の技術専門職で、弊社代表内田の「エンジニアに管理職以外のキャリアパスを提供したい」という想いから創られた、「技術にこだわるエンジニアがエンジニアであり続けるキャリア」を築くことのできる制度です。これまでのエンジニアのキャリアは、「エンジニア35歳定年説」と言われていたように、ある程度キャリアを重ねていくとマネジメントに重き



が置かれる状況がありました。しかし、マネジメントを目指したいというエンジニアばかりではありません。いくつになっても技術に向き合っていたいというエンジニアがその方向でキャリアアップを続けられるようにと生まれたのが、APCの「プロフェッショナル職」です。私も同じように考えるエンジニアの一人で、今から3年ほど前に「プロフェッショナル職」の道を選びました。

なるほど。その名の通り、高い成果が求められそうです。

そうですね。「プロフェッショナル職」と呼ばれるからには、圧倒的な“強み”を持っていたいと思いますし、さらに、それを掘り下げていくだけでは足りません。専門分野において、周りのエンジニアから一目置かれる存在を目指す必要があり、そのためのアウトプットが義務付けられているんです。

アウトプットとは、具体的にはどのようなものになりますか？

方法は様々です。社内外のイベントや勉強会での登壇だったり、論文の発表だったり…文章を書くのが得意な方であれば書籍出版されたエンジニアもいます。私が実際に行っているのは、社外の技術イベントや社内のIT勉強会での登壇、そして社内大学「APアカデミー」での講師などです。「プロフェッショナル職」の役割の一つには、専門領域において自身が得た知識やノウハウを社内外に発信することで、社内に対しては社員のレベルアップ、社外に対しては積極的に発信することによるAPCの企業ブランディング向上に貢献していく必要があるのだと捉えています。

経験を活かし、リアルで実務に適した講座を

社内大学「APアカデミー」での具体的な取り組みについて教えてください。2年ほど前から、社内大学「APアカデミー」の講師を担当するようにな

りました。私が強みとしているのは、「ログ」の領域になるので、講座も「ログ系アカデミー (Elasticsearch)」というものを作りました。受講者のレベルに合った内容になるようにと、「入門編 (2時間×2回)」「基礎編 (2時間×3回)」「実践編 (2時間×3回)」の3ステップに分けて運営しています。

講師をしてみても、「APアカデミー」の魅力はどこにあると感じていますか？

前提として、社内大学という存在が珍しいですよ。書籍購入の補助や研修費用の補助などの福利厚生は聞いたことがありますが、社内大学として「社員が本当に学びたい内容が学べる環境がある」というのは貴重なのではないのでしょうか。そして、大きな特徴は、実際に現場で経験を積んできたエンジニアから直接学べる点です。どれもリアルで実務に適した講座内容になっていると思います。私自身のことでいえば、現場で「Elasticsearch」の運用と活用を担当していて、講師になってからは、そこで学んだ知識や失敗・成功を含めた経験を伝えています。本やネットで調べたらでてるような情報ではなく、「現場で必要な知識」や“実践に近い経験”が得られる場にしたいと考えています。また、講師の立場としては、受講者から深いフィードバックをもらえることがとても参考になります。

どういことでしょうか？

社外の勉強会やセミナーに登壇した際もアンケートでフィードバックをいただきますが、踏み込んだ意見はあまりもらえません。面白かった、良かった、もう少し聞きたかった…など感謝の言葉も嬉しいのですが、もっと良くしていくための改善につながる意見をもらうのはなかなか難しいんです。一方で、社員からは“ここの内容が分かりにくかった”“もう少し事例を増やしてもらいたい”など、具体的な意見をもらえます。過去には、受講者から「来週、顧客とElasticsearchについて話をするので、事前に最新の知識を得ることができて良かった」と感謝の言葉をもらったこともありました。「APアカデミー」の講師として目指しているのは、エンジニアのキャリアアップにつながるような研修ですから、そこに貢献できたと感じられた出来事でした。

今後はどのような取り組みを考えていますか？

ここ数年間は、コロナの影響もあってオンラインでの講座開催が中心でした。当初は、顔が見えなかったり、参加者のPC環境が分からなかったり…と壁にぶつかることも多くあったのですが、そこは画面共有や受講者の環境を全てAWSにするなどで解決してきました。オンライン研修としてより良い形が作れたと感じています。そして、今後も既存の研修内容のブラッシュアップを続けるとともに、さらに担当領域も広げながら、受講者にとって“実務に役立つ講座”を形にしていきたいですね。

日々勉強。その分野のプロでありつづけるために

現在「プロフェッショナル職」として活躍されていますが、昔からエンジニアの道を極めたいと考えていたのでしょうか？

実は大学は文系出身です。歴史が大好きで、将来は考古学者になりたいと思っていました。エンジニアの道を目指すきっかけになったのは、趣味でやっていたゲームです。大学時代に個人サイトが流行っていたのもあって、自分が好きなゲームのホームページを作ってみたんです。ホームページビルダーを使うと初心者でも割りと簡単に作れたんですが、自分としては物足りなかった。技術的な話というよりは、誰が作っても同じようなものができて、自分の個性を表現できないことに物足りなさを感じたんです。そこから、“こうやりたい”を形にするには知識やスキルが必要だと気づき、勉強するようになりました。

「オリジナルなものを創りたい」という気持ちが強かったんですね。

それはありますね。私の場合は、渡されたレシピ通りにつくるだけでは満足感が得られませんでした。シンプルに面白くない、と感じてしまう。「守破離」の考え方のように、基本を学ぶことはとても重要ですが、次のステップとしてその型をやぶって自分だけのオリジナリティを表現していきたいと思ったんです。

これは、今も大事にされていることでもありますか？

そう思いますね。前職からAPCに転職してきた理由とも関係していると思っています。大学卒業後は、Sierでエンジニアとして開発に携わっていたのですが、そこでは決まった形でしか開発ができなかったんです。もちろん学んだこともたくさんありましたが、エンジニアとしてはどこかマンネリ化していたように思います。そんなときに別プロジェクトで、あるベンチャー企業で任された案件があって、それがとても面白くて。お客様の課題を聞きながら、解決するためのシステムを提案して開発をしていく…こういう仕事があったんだと気づき、それができると感じたAPCに転職を決めました。

そうだったんですね。この先も「プロフェッショナル職」であるために必要なことは何だと考えていますか？

技術のスペシャリストでありつづけるためにも、日々の勉強は欠かせないと思います。では、限られた時間の中でどうやって学んでいくのか？ということが課題になりますが、私自身は、仕事の中で学んでいけば良いと考えています。仕事の中で知らない言葉や知識に出会うことがあります。そのときに、経験のあるメンバーに任せるだけにせず、同時に自分も調べて学んでいく。こういう方法があるんだ、こういう考え方をすればいいんだ…とインプットしていくんです。勉強できる機会があるなら無駄にしない。得たものは理解を深めて、自分のものにしていく。「プロフェッショナル職」には、常にそんな姿勢でいることが必要なのではないかと思いますが、APCはそのチャレンジを応援してくれる会社だと感じています。



商標について

下記の他社登録商標・商標をはじめ、本資料に記載されている会社名、システム名、製品名は一般に各社の登録商標または商標です。
なお、本文および図表中では、「™」、「®」は明記しておりません。

- Apache, Tomcat, Apache HadoopおよびApache Sparkは、Apache Software Foundationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- AWS, Amazon Web Servicesの商標およびロゴは、Amazon.com, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- GoogleおよびGoogleロゴ、YouTubeおよびYouTubeロゴ、AndroidおよびAndroidロゴ、Androidマーケット、Google Analytics, Google Cloud, Google Earth, Google Maps, GoogleマップとそのロゴはGoogle Inc.の商標または登録商標です。
- Linuxは、Linus Torvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- CCNA, Cisco Packet Tracer, SD-WANは、すべてのシスコが提供する製品及びサービスの商標およびロゴは、米国およびその他の国における Cisco Systems, Inc. およびその関連会社の商標
- DockerおよびDockerのロゴはDocker, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Vmware, VMwareロゴはVMware, Inc.の米国および各国での登録商標または商標です。
- Elasticsearchは米国および他の国々で登録されたElasticsearch B.V.の商標です。
- Microsoft, Active Directory, SharePoint, Internet Explorer, Windows, Windows Server, VBA, Word, Excel, PowerPoint, Microsoft Edge, Office365, AzureならびにすべてのMicrosoftの商標およびロゴは、米国およびその他の国におけるMicrosoft Corporation および/またはその関連会社の登録商標または商標です。
- Oracle, JavaおよびMySQLは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。
- Solaris, Java及びすべてのJava関連の商標及びロゴは米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- SQL Serverは米国法人Sybase, Inc.の商標です。
- Red Hat, CentOS, Open shift, Ansibleの商標およびロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Pythonは、Python Software Foundationの商標または登録商標です。
- Zscalerは、Zscaler, Inc.の登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商号、商標もしくは登録商標です。

